

# 自 己 評 価 書

静岡大学総合情報処理センター

平成20年7月

## 目 次

I	センターの現状及び特徴.....	2
II	目的.....	3
III	基準ごとの自己評価.....	4
基準 1	活動の目的.....	4
基準 2	活動の実施体制.....	7
基準 3	教員の採用・昇格等.....	11
基準 4	活動の状況と成果.....	15
基準 5	施設・設備.....	30
基準 6	財務.....	36
基準 7	管理運営.....	38

添付資料一覧

## I センターの現状及び特徴

### 1 現況

- (1) 名称 総合情報処理センター  
 (2) 所在地 本部：静岡県浜松市中区城北3丁目5番1号  
 分室：静岡県静岡市駿河区大谷836

#### (3) センターの構成

センター長	1名
本部専任教員	1名
分室専任教員	1名
分室主任	1名
ネットワーク主任	2名
本部前任技術専門職員	1名
分室前任技術専門職員	2名
パート事務職員	2名
パート技術職員	2名
派遣職員	1名

### 2 特徴

「総合情報処理センター」（以下「センター」という）は、変遷を重ねてきた本学の「情報処理センター組織」の対象範囲を全学に拡大することを目的に平成12年に改組された組織である。

以下に、現センターの創設からの歴史を述べる。

静岡大学では昭和39年に最初の共同利用計算機が設置され、研究・教育や入試事務等に利用されてきた。

その後、学内の情報処理量の増大に対処するため、平成2年に学内共同利用施設としての「情報処理センター」を設置した。その際、浜松、静岡それぞれの主要キャンパス内に100MbpsのFDDI基幹LANを敷設するとともに、部局すべてに10Mbpsのイーサネット支線LANを敷設した。また、新たにセンター専任の職員として、助教授1名、技官2名を増員した。

このネットワークは平成5年度の補正予算により飛躍的に拡充強化された。これは学術情報ネットワークを介して、全国の大型計算機センターや学術情報センター、更には国内外の大学・研究機関と接続され、研究推進のための強力なインフラストラクチャとして機能した。

以来順調な管理運営が行われてきたが、この間に情報技術（IT）の急速な発展に伴い、情報処理センターに求められる役割、対象範囲は急激に拡大した。これに対応するため、平成12年に「総合情報処理センター」として生まれ変わった。新たに技官1名を増員

した。

センターは、大学の情報基盤としての学内LAN、アカウント管理、メールシステム、情報教育実習室、計算サーバ、遠隔講義システム、応用ソフトウェアの管理、情報セキュリティ管理などの整備、運用支援を実施している。同時に「地域のIT中核センター」をキャッチフレーズとして掲げ、SINETノード校として静岡県内の大学や全国の大学との連携を図りながら、教育・研究を支援するITの研究・開発活動を行っている。

本センターの特筆すべき特徴として「情報セキュリティ管理（ISMS）の高度化」と「ITコンプライアンスの高度化」の2点を挙げる事が出来る。このうちISMSについて以下に説明する。

ISMSの高度化活動は平成13年に開始された。当時の国際標準であるBS7799の取得を目指し、問題点の抽出、その対応策の検討と実行、認証に必要なドキュメントの整備などを積極的に推進した結果、平成15年に国際的にも最も早い段階でのBS7799の取得を達成した。以来、更にISMSを積極的に推進し、平成19年には国際認証であるISO27001、並びにそれに該当する国内の規格JIS-Q27001の取得を達成した。これらセンターのISMSに関する独自の取組みは、他大学におけるISMS認証の連鎖を起しつつある。この結果「静岡大学の情報セキュリティ管理は最先端」という評価を得ている。

近年、センターに求められるものは従来の「情報サービスの充実」「情報セキュリティ管理の高度化」などに加え、「環境負荷の最小化」「障害者利用支援の為にユニバーサルデザインの実現」「IT投資コスト削減による大学経営最適化」などが強く求められるようになってきた。

これらのニーズに対し、現在、センターでは「サーバアウトソーシング化研究」「低電力高性能のシンクライアントシステム開発」「WEB実時間配信遠隔講義・会議システム開発」「端末のユニバーサルデザイン研究」「生体認証システムの開発」などを積極的に推進している。

以上の活動を通し、センターは本学の学内共同教育研究施設として、電子計算機システム及び通信・情報ネットワークを管理運用し、本学の研究、教育、学術情報サービス及び事務処理のための利用に供することにより、本学における情報処理の推進に寄与する目的に向かって前進していくことを誓い合ったところである。

## II 目的

### 1. 設置の目的と具体的な業務概要について

静岡大学総合情報処理センターは、以下を設置の目的としている。

センターは、本学の学内共同教育研究施設として、センターの電子計算機システム及び本学の通信・情報ネットワークを管理運用し、本学の研究、教育、学術情報サービス及び事務処理のための利用に供することにより、本学における情報処理の推進に寄与することを目的とする。

静岡大学総合情報処理センターは上記の目的を実現するために、以下の業務を遂行する。

- (1) 学術研究のための、科学技術計算及びデータ処理に関すること。
- (2) 情報処理教育のための、電子計算機システムの利用に関すること。
- (3) 学外の情報ネットワークとの連携及びその利用に関すること。
- (4) 本学キャンパス情報ネットワークに関すること。
- (5) 電子計算機システム及び情報ネットワーク利用者に対する技術指導に関すること。
- (6) 情報処理システムの研究及び開発に関すること。
- (7) 事務処理のための、電子計算機システムの利用に関すること。
- (8) その他上記目的を達成するために必要な業務。

### 2. 年度計画

静岡大学の年度計画は以下のとおりである。設定目的に沿って、年度計画達成のために日常業務を遂行することがセンターに課された課題・目標である。

平成20年度 静岡大学年度計画 (センターに関連する部分の抜粋)

#### ○ 教育に関する目標

《教育に必要な設備、図書館、情報ネットワーク等の活用・整備》

情報リテラシー教育やe-ラーニングのため、新たに設置したウェブ放送局スタジオを活用するとともに、施設設備の改善を図る。

#### ○ 研究に関する目標

《研究設備等の活用・整備》

新しい情報基盤を強化し、情報のセキュリティを確保するとともに、性能のよいネットワーク環境の整備を継続する。

より高度な数値計算に必要な性能を有する計算環境を保持するため、他大学等との連携を模索する。

#### ○ 地域の拠点校としての役割

ネットワークや情報機器類の整備を進め、地域の情報拠点機能を強化することにより、e-ラーニングや情報提供等の事業を引き続き実施する。

#### ○ 事務等の効率化・合理化に関する目標を達成するための措置

《事務組織の機能、編成の見直し》

事務組織を整備し、業務量削減に向けた簡素化を図る。

業務情報の一元化に向け、段階的にシンクライアントの導入を図る。

アウトソーシングした業務について、その効果を検証し、改善に努めるとともに、導入を促進する。

#### ○ 学内情報基盤整備

情報戦略ワーキングでの答申を受け、全学の情報基盤を統合的に管理する体制を構築する。

#### ○ 安全管理に関する目標

携帯電話を利用した学生の安否確認システムを、静岡県立大学と連携して開発する。教職員を含めた安否確認体制を策定する。

## III 基準ごとの自己評価

## 基準1 活動の目的

## (1) 観点ごとの分析

- 1-1 目的（学内共同教育研究施設等としての活動を行うに当たっての基本的な方針、達成しようとしている基本的な成果等）が明確に定められており、その内容が、学校教育法に規定された、大学一般に求められる目的に適合するものであること。
- 1-2 目的が、大学の構成員に周知されているとともに、社会に公表されていること。

(基本的な観点)

- 1-1-1 目的として、活動を行うにあたっての基本的な方針や、達成しようとする基本的な成果等が、明確に定められているか。

## 【観点到に係る状況】

基本的な方針は平成12年3月15日に最初に制定され、以降、平成12年12月20日、平成16年2月10日、平成16年4月1日、平成17年3月16日、平成17年10月1日、平成18年2月15日、平成18年3月27日、平成20年4月1日に規則改正が行われてきた。現在、「静岡大学総合情報処理センター規則」に以下の様に明確に定められている。

表1-1-1 静岡大学総合情報処理センター規則（抜粋）

<p>静岡大学総合情報処理センター規則</p> <p>(目的)</p> <p>第2条 センターは、本学の学内共同教育研究施設として、センターの電子計算機システム及び本学の通信・情報ネットワークを管理運用し、本学の研究、教育、学術情報サービス及び事務処理のための利用に供することにより、本学における情報処理の推進に寄与することを目的とする。</p>
---

(出典：静岡大学総合情報処理センター公式 ホームページ)

また、ISMSの国際認証であるISO27001に基づくドキュメントに明確に定めている。

## 【分析結果とその根拠理由】

センターにおける全学の教育研究支援の基本方針、基本的な達成目標等は、「静岡大学総合情報処理センター規則」、「ISMS文書」に明確にされていると判断する。

## 添付資料

- 規則-1 静岡大学総合情報処理センター規則
- 資料-3 ISMS文書

## 1-2-1 目的が、大学の構成員（教職員及び学生）に周知されているか。

## 【観点に係る状況】

- ① 大学公式ホームページに「センター規則」として、目的を掲載している。
- ② 平成 20 年度に設置した電子掲示板にセンターの目的、サービス内容を適宜掲示している。
- ③ 学内のセンター専用掲示板にポスター、詳細内容などを記載したドキュメントを適時掲示している。

## 【分析結果とその根拠理由】

センターの目的は、上記のとおり、ウェブサイト、電子掲示板、専用掲示板に掲載している。また、変更情報はタイムリーに変更され、その履歴も明示されていることから、目的が大学の構成員に周知されているものと判断する。

## 添付資料

- URL - 1 静岡大学公式 ホームページ
- URL - 2 静岡大学総合情報処理センター公式 ホームページ
- URL - 3 静岡大学総合情報処理センター規則 ホームページ

## 1-2-2 目的が、社会に広く公表されているか。

## 【観点に係る状況】

- ① 大学公式ホームページに「センター規則」として、目的を掲載している。
- ② 学生案内に目的を掲載している。

## 【分析結果とその根拠理由】

センターの目的は、本学の大学公式ホームページや学生案内に掲載されている。さらに、国立大学法人情報系センター会議、情報系学会などの学外イベントへの発表機会においてセンターの目的や業務の紹介を数多く行っており、センターの目的が社会に広く公表されているものと判断する。

## 添付資料

- 資料-2 2008 学生案内
- URL - 1 静岡大学公式 ホームページ
- URL - 2 静岡大学総合情報処理センター公式 ホームページ
- URL - 3 静岡大学総合情報処理センター規則 ホームページ
- URL - 6 静岡大学総合情報処理センター利用規則 ホームページ

## (2) 優れた点及び改善を要する点

## 【優れた点】

- ・ センターの基本理念を「センターの電子計算機システム及び本学の通信・情報ネットワークを管理運用し、本学の研究、教育、学術情報サービス及び事務処理のための利用に供することにより、本学における情報処理の推進に寄与すること」と分りやすく簡潔にするとともに、セン

ター規則を制定し、センター構成員が同じ志を持って前進するよう意識付けを行っている。

- ・ センターの目的を周知するため、大学公式ホームページ、学生案内への掲載、電子掲示板、専用掲示板へのポスターや詳細資料の掲示を行っており、教職員、学生に十分周知されている。
- ・ 国立大学法人情報系センター会議、情報系学会などの学外イベントへの発表機会においてセンターの目的や業務の紹介を数多く行っており、センターの目的や業務は大学内外に積極的にPRしている。

#### 添付資料

- 資料－1 平成20年度 静岡大学概要
- 資料－2 2008 学生案内
- URL－1 静岡大学公式 ホームページ
- URL－2 静岡大学総合情報処理センター公式 ホームページ
- URL－3 静岡大学総合情報処理センター規則 ホームページ

#### 【改善を要する点】

特になし

#### (3) 基準1の自己評価の概要

センターは、その目的として「センターの電子計算機システム及び本学の通信・情報ネットワークを管理運用し、本学の研究、教育、学術情報サービス及び事務処理のための利用に供することにより、本学における情報処理の推進に寄与すること」をセンター規則に明記している。この内容は、学校教育法第52条及び第65条に規定された大学一般及び大学院一般に求められる学内共同教育研究施設の目的に適合している。

また、この目的は、本学の公式ホームページのほか、学生案内等の冊子への掲載、電子掲示板、専用掲示板へのポスター、ドキュメントの掲示により学内に周知し、全構成員が志を共有して目標の達成を目指している。さらに、国立大学法人情報系センター会議、情報系学会などの学外イベントへの発表機会においてセンターの目的や業務の紹介を数多く行うなど、社会に対しても広く公表している。

#### 添付資料

- 規則－1 静岡大学総合情報処理センター規則
- 資料－1 平成20年度 静岡大学概要
- 資料－2 2008 学生案内
- URL－1 静岡大学公式 ホームページ
- URL－2 静岡大学総合情報処理センター公式 ホームページ
- URL－3 静岡大学総合情報処理センター規則 ホームページ

## 基準2 活動の実施体制

## (1) 観点ごとの分析

- 2-1 活動に係る基本的な組織構成が、目的に照らして適切なものであること。
- 2-2 活動を展開する上で必要な運営体制が適切に整備され、機能していること。
- 2-3 活動の質の向上のための取り組みが適切に行われていること。

(基本的な観点)

## 2-1-1 基本的な組織構成が、目的を達成する上で適切な規模と機能を持っているか。

## 【観点に係る状況】

表2-1-1のように「静岡大学総合情報処理センター規則」に定めている組織体制にて目的達成を推進している。

表2-1-1 静岡大学総合情報処理センター規則 (抜粋)

<p>静岡大学総合情報処理センター規則</p> <p>(職員)</p> <p>第7条 センターに、次の職員を置く。</p> <p>(1) センター長</p> <p>(2) 副センター長</p> <p>(3) 専任教員</p> <p>(4) 分室主任</p> <p>(5) ネットワーク主任 2人</p> <p>(6) その他の職員</p> <p>(センター長)</p> <p>第8条 センター長は、センターの業務を総括する。</p> <p>2 センター長の選考に関し必要な事項は、別に定める。</p> <p>(副センター長)</p> <p>第9条 副センター長は、センター長を補佐し、センターの業務を掌理する。</p> <p>2 副センター長の選考については、本学の教授のうちから、管理委員会の議に基づき、学長が任命する。</p> <p>3 副センター長の任期は、2年とし、再任を妨げない。</p> <p>(専任教員)</p> <p>第10条 専任教員は、センターの業務を処理する。</p> <p>2 専任教員の選考に関し必要な事項は、別に定める。</p> <p>(分室主任)</p> <p>第11条 分室主任は、分室の業務を処理する。</p> <p>2 分室主任は、静岡地区の部局に所属する教員のうちから、管理委員会の議に基づき、学長が任命する。</p> <p>3 分室主任の任期は、2年とし、再任を妨げない。</p> <p>(ネットワーク主任)</p> <p>第12条 ネットワーク主任は、キャンパス情報ネットワークの管理運営業務を処理する。</p> <p>2 ネットワーク主任は、本学の教員のうちから、管理委員会の議に基づき、学長が任命する。</p> <p>3 ネットワーク主任の任期は、2年とし、再任を妨げない。</p>
--

(出典：静岡大学総合情報処理センター公式 ホームページ)



添付資料

規則－1 静岡大学総合情報処理センター規則

**【分析結果とその根拠理由】**

以上の組織構成により、前記「センターの目的」を達成するために適切な規模と機能を有していると判断する。

2-2-1 活動に関する施策等を審議するセンター会議等の組織が、適切な構成となっているか。  
また、必要な回数の会議を開催し、実質的な検討が行われているか。

**【観点に係る状況】**

表2-2-1に示す通り、以下の会議を定期的で開催している。

表2-2-1 会議開催回数

(単位：回)

年度	センター会議	センター 運営委員会	情報セキュリティ 委員会	ITCP 推進委員会	ISMS 検討会議	スタッフ会議
平成18年度	4	3	1	8	30	45
平成19年度	3	2	1	6	30	45
平成20年度	2			3		20

(出典：センターからの報告)

表のうち、情報セキュリティ委員会、ITCP推進委員会は全学委員会であるが、センター長はメンバーであり、センターがサポートしている。

**【分析結果とその根拠理由】**

- ① センター会議：センター全体の運営、活動につき前期、後期それぞれ1回以上実施されているため、問題点の把握、対策など実質的な検討が行われていると言える。
- ② センター運営委員会：センター全体の運営、活動につき前期、後期それぞれ1回以上実施されているため、全学的な立場から問題点の把握、対策など実質的な検討が行われていると言える。
- ③ 情報セキュリティ委員会：大学全体の情報セキュリティに対する管理、実態把握、管理向上の活動につき年に1回ずつ実施されているため、情報セキュリティに関する問題点の把握、対策など実質的な検討が行われていると言える。
- ④ ITCP委員会：大学全体のITコンプライアンスにつき、タイムリーに十分な回数が実施されているため、コンプライアンスに関する問題点の把握、対策など実質的な検討が行われていると言える。なお、「個人情報・機密情報漏洩防止」に関してもこの委員会で検討、対策が推進されている。
- ⑤ ISMS検討会議：センターの情報セキュリティに対する管理、実態把握、管理向上の活動につきタイムリーに十分な回数が実施されているため、センターの情報セキュリティに関する問題点の把握、対策など実質的な検討が行われていると言える。
- ⑥ スタッフ会議：センター運営上の問題点、内外からのニーズに対する検討会議が1回/週、実施されているため、センター運営上の問題点、内外のニーズに関する問題点の把握、対策など実質的な検討が行われていると言える。

## 添付資料

- 名簿－1 総合情報処理センター運営委員会名簿
- 名簿－2 I T C P推進委員会名簿
- 名簿－3 共同施設管理委員会名簿
- 名簿－4 静岡大学情報セキュリティ委員会名簿
- 議事録－1 平成18年度第1回 総合情報処理センター運営委員会議事要録
- 議事録－2 平成18年度第2回 総合情報処理センター運営委員会議事要録
- 議事録－3 平成18年度第3回 総合情報処理センター運営委員会議事要録
- 議事録－4 平成19年度第1回 総合情報処理センター運営委員会議事要録
- 議事録－5 平成19年度第2回 総合情報処理センター運営委員会議事要録
- 議事録－6 情報セキュリティ委員会議事録

### 2-3-1 活動の質の向上のために、活動の状況を検証し、問題点等を改善するための取組が行われているか。

#### 【観点に係る状況】

- ① 平成14年～平成20年（現在）1回/週＝50回/年、センター職員全員でスタッフ会議を開催している。
- ② 平成18年～平成20年（現在）、問題点のリストアップ、検討状況、対策状況、対策実績を管理するBackWorkerシステムを導入して運用している。

#### 【分析結果とその根拠理由】

- ① スタッフ会議で、活動の質の向上、活動の状況の検証、問題点等を改善するための取組を漏れなく実施している。
- ② BackWorkerシステムにより、活動の時系列的な実績を管理できている。
- ③ ②の結果、PDCAが継続的に推進できている。
- ④ ISMSに関する事項はISMS文書に明記された手順、ドキュメントで管理されている。

## 添付資料

- 資料－3－② ISMS手順書

### 2-3-2 学生、教職員、その他学外関係者のニーズを把握し、適切な形で活動に反映されているか。

#### 【観点に係る状況】

- ① 平成14年～平成20年（現在）1回/週＝50回/年、センター職員全員でスタッフ会議を開催し、ニーズの把握、それに対する対応を検討している。
- ② 平成18年～平成20年（現在）、学内外のニーズのリストアップ、検討状況、対策状況、対策実績を管理するBackWorkerシステムを導入して運用している。
- ③ センター公式ホームページに「総合情報処理センターへのメールによるお問い合わせ」を設け関係者のニーズを把握できるようにしてある。
- ④ 学外からのニーズに対しては専任教員が積極的に学外での問い合わせ、希望を把握するように努めている。

**【分析結果とその根拠理由】**

- ① スタッフ会議で、漏れなくニーズの把握、ニーズの検討、対応策の検討を実施している。
- ② BackWorker システムにより、ニーズ対応活動の時系列的な実績を管理できている。
- ③ ②の結果、PDCA が継続的に推進できている。

**(2) 優れた点及び改善を要する点****【優れた点】**

- ① 問題点、ニーズなどの対象分野、範囲、質などに応じて6種類の検討機会を設け、的確な対応が行われている。
- ② BackWorker システムなどの先進の情報システムを使用することにより、問題点、ニーズの把握、検討、対応策などの漏れが排除されている。

**【改善を要する点】**

特になし。

**(3) 基準2の自己評価の概要**

静岡大学総合情報処理センター規則（下記 URL で公開）にて、組織体制を明記している。この組織構成により、前記「センターの目的」を達成するために適切な規模と機能を有していると判断する。

また、活動に関する施策等を審議するためにスタッフ会議、ISMS 検討会議、ITCP 推進委員会、情報セキュリティ委員会、センター会議、センター運営委員会が組織され、問題点や課題に応じた適切な構成となっている。それらはそれぞれ必要十分な回数開催されており、実質的な検討が行われていると判断できる。

**添付資料**

規則－1 静岡大学総合情報処理センター規則

資料－3 ISMS 文書

議事録－1 平成18年度第1回 総合情報処理センター運営委員会議事要録

議事録－2 平成18年度第2回 総合情報処理センター運営委員会議事要録

議事録－3 平成18年度第3回 総合情報処理センター運営委員会議事要録

議事録－4 平成19年度第1回 総合情報処理センター運営委員会議事要録

議事録－5 平成19年度第2回 総合情報処理センター運営委員会議事要録

議事録－6 情報セキュリティ委員会議事録

URL －2 静岡大学総合情報処理センター公式 ホームページ

URL －3 静岡大学総合情報処理センター規則 ホームページ

### 基準3 教員の採用・昇格等

#### (1) 観点ごとの分析

3-1 教員の採用及び昇格等に当たって、適切な基準が定められ、それに従い適切な運用がなされていること。

(基本的な観点)

**3-1-1 専任教員の採用基準や昇格基準等が明確かつ適切に定められ、適切に運用がなされているか。特に、それぞれの専門的役割に応じた能力の評価が行われているか。**

#### 【観点到に係る状況】

以下の規則により専任教員の採用基準や昇格基準等が定められている。

- ① 静岡大学総合情報処理センター規則 (表3-1-1 (1))
- ② 静岡大学総合情報処理センター専任教員選考に関する細則 (表3-1-1 (2))
- ③ 静岡大学総合情報処理センター専任教員選考に関する細則第5条に基づく申し合わせ事項
- ④ 静岡大学総合情報処理センター専任教員昇任に関する申合せ (表3-1-1 (3))

表3-1-1 (1) 静岡大学総合情報処理センター規則 (抜粋)

静岡大学総合情報処理センター規則 (専任教員) 第10条 専任教員は、センターの業務を処理する。 2 専任教員の選考に関し必要な事項は、別に定める。 (分室主任) 第11条 分室主任は、分室の業務を処理する。 2 分室主任は、静岡地区の部局に所属する教員のうちから、管理委員会の議に基づき、学長が任命する。 3 分室主任の任期は、2年とし、再任を妨げない。 (ネットワーク主任) 第12条 ネットワーク主任は、キャンパス情報ネットワークの管理運営業務を処理する。 2 ネットワーク主任は、本学の教員のうちから、管理委員会の議に基づき、学長が任命する。 3 ネットワーク主任の任期は、2年とし、再任を妨げない。
---

(出典：静岡大学総合情報処理センター公式 ホームページ)

表3-1-1 (2) 静岡大学総合情報処理センター専任教員選考に関する細則 (抜粋)

静岡大学総合情報処理センター専任教員選考に関する細則 (趣旨) 第1条 静岡大学総合情報処理センター規則(平成12年3月15日制定)第10条第2項の規定に基づく、静岡大学総合情報処理センター専任教員(以下「センター専任教員」という)の選考は、静岡大学教員資格基準(平成4年2月19日全部改正)によるほか、この細則の定めるところによる。 (選考委員会) 第2条 静岡大学共同施設管理委員会(以下「管理委員会」という)は、センター専任教員 の採用、昇任等の選考を
---

行うため、その都度、静岡大学総合情報処理センター教員選考委員会（以下「選考委員会」という）を設ける。

（選考委員会の組織）

第3条 選考委員会は、次の各号に掲げる委員をもって組織する。

- (1) センター長
- (2) 副センター長
- (3) センター専任教員
- (4) 管理委員会委員のうちから選出された者 若干人
- (5) 運営委員会委員のうちから選出された者 若干人

（委員長）

第4条 選考委員会に委員長を置き、センター長をもって充てる。

（候補者の選考）

第5条 選考委員会における選考の手続きは、センター長が別に定める。

（選考結果の報告）

第6条 選考委員会は、候補者の選考の結果を速やかに、次の各号に掲げる書類を添えて、管理委員会に諮るものとする。

- (1) 教員資格審議資料
- (2) 個人調書
- (3) 研究業績書

2 前項各号の書類の様式は、センター長が定める。

（雑則）

第7条 この細則に定めるもののほか、必要な事項は、センター長が別に定める。

（出典：静岡大学総合情報処理センター公式 ホームページ）

表3-1-1 (3) 静岡大学総合情報処理センター専任教員昇任に関する申合せ（抜粋）

静岡大学総合情報処理センター専任教員昇任に関する申合せ

- 1 この申合せは、静岡大学総合情報処理センター（以下「センター」という。）の専任教員昇任に関するものである。
- 2 センター教員の昇任に当たっては、次に掲げるそれぞれの事項のうち、複数を満たすことを基準とする。
  - (1) 教授
    - ① センターの管理・運営・企画面に関して特に優れた能力を有すると認められること。
    - ② 情報処理に関する豊富な経験及び特に優れた技術を有すると認められること。
    - ③ 研究業績について、センター助教授就任後の新たな複数の論文または同等の成果（附記参照）を含め、論文または同等の成果が10件以上あること。
  - (2) 准教授
    - ① センターの管理・運営・企画面に関して優れた能力を有すると認められること。
    - ② 情報処理に関する経験及び優れた技術を有すると認められること。
    - ③ 研究業績について、センター就任後の新たな論文または同等の成果を含め、論文または同等の成果が5件以上あること。
  - (3) 講師
    - ① センターの管理・運営・企画面に関する能力を有すると認められること。
    - ② 情報処理に関する経験及び技術を有すると認められること。
    - ③ 研究業績について、センター就任後の新たな論文または同等の成果を含め、論文または同等の成果が3件以上あること。
- 3 センター専任教員選考に関する細則第3条第2号に定める選考委員会委員がその選考等の当事者である場合には、委員としないものとする。

4 この申合せに定めるもののほか、必要な事項はセンター長が定める。

附 記

論文と同等の成果とは、特許、著作、センターの運営に寄与する業務上の成果などから、選考委員会で認めたものをいう。

(出典：静岡大学総合情報処理センター公式 ホームページ)

【分析結果とその根拠理由】

- ① 上記規則により専任教員の採用基準や昇格基準等が明確かつ適切に定められている。
- ② 平成18年度の専任教員採用において上記規則が適用され実行された。

3-1-2 教員の活動に関する定期的な評価が行われているか。また、その結果把握された事項に対して適切な取組がなされているか。

【観点に係る状況】

年度ごと「教員データベース」に基づき、基準4の表4-1-1(3)に示す「センター活動実績表」が作成されている。

添付資料

URL - 8 教員データベース ホームページ

【分析結果とその根拠理由】

上記「センター活動実績表」により、年度ごとの教員の活動評価が適切に行われているといえる。

(2) 優れた点及び改善を要する点

【優れた点】

- ① 教員選考、昇任に対して明確な規則が制定され運用されている。
- ② 教員の業績については「センター活動実績表」が年度毎に作成され適切に評価が行われている。

【改善を要する点】

特になし。

(3) 基準3の自己評価の概要

専任教員の採用基準や昇格基準等は、静岡大学総合情報処理センター規則、静岡大学総合情報処理センター専任教員選考に関する細則、静岡大学総合情報処理センター専任教員選考に関する細則第5条に基づく申し合わせ事項、静岡大学総合情報処理センター専任教員昇任に関する申合せにより明確かつ適切に定められ、適切に運用がなされている。

また教員の活動に関する定期的な評価については年度毎に評価後更新される「センター活動実績表」により、それぞれの専門的役割に応じた能力の評価が行われている。

添付資料

- 規則－1 静岡大学総合情報処理センター規則
- 規則－3 静岡大学総合情報処理センター専任教員選考に関する細則
- 規則－4 静岡大学総合情報処理センター専任教員昇任に関する申し合せ
- 規則－5 静岡大学総合情報処理センター専任教員選考に関する細則第5条に基づく申し合わせ事項
- URL －3 静岡大学総合情報処理センター規則 ホームページ
- URL －5 静岡大学総合情報処理センター長選考規則 ホームページ

## 基準4 活動の状況と成果

## (1) 観点ごとの分析

4-1 目的・基本の方針に照らして、学内共同教育研究施設等としての活動が活発に行われ、成果が上がっていること。

(基本的な観点)

## 4-1-1 活動の実施状況から判断して、活動が活発に行われているか。

## 【観点に係る状況】

前記、センターの目的・基本の方針に照らして、学内共同教育研究施設等として以下の活動を行っている。

## 《1》センター全体の活動のまとめ

平成18年～平成20年7月までの活動を表4-1-1(1)にまとめた。ここで、活動内容の分類は以下とした。

- ① 研究論文：センター活動における運用及び研究成果を論文として発表した件数
- ② 著書：センター活動における運用及び研究成果を正式出版した著書件数
- ③ 講演：招待講演、研究発表、学会発表の件数
- ④ システム開発・運用：センターが独自にシステムを開発しそれを全学実サービスに供している件数
- ⑤ センター運営活動：調査、視察、産学連携活動、ISMS、ITコンプライアンスなど顕著なセンター活動の件数

表4-1-1(1) センター全体の活動件数

(単位：件)

センター全体					
年度	研究論文	著書	講演	システム開発・運用	センター運営活動
平成18年度	19		11		10
平成19年度	8	4	19	2	15
平成20年度	1		5	3	6
小計	28	4	35	5	31
総数	103				

(出典：センターからの報告)

## 《2》センター教員毎のまとめ

センター所属教員毎に、主体的に関わった活動件数を表4-1-1(2)にまとめた。

表4-1-1(2) 教員別の活動件数

(単位：件)

八巻直一					
年度	研究論文	著書	講演	システム開発・運用	センター運営活動
平成18年度			9		9
平成19年度	2	3	13	2	9
平成20年度	1		3	3	5



小計	3	3	25	5	23
総数	59				
<b>井上 春樹</b>					
年度	研究論文	著書	講演	システム開発・運用	センター運営活動
平成 18 年度	16				9
平成 19 年度	5	3	8	2	7
平成 20 年度	1		2	3	4
小計	22	3	10	5	20
総数	60				
<b>長谷川 孝博</b>					
年度	研究論文	著書	講演	システム開発・運用	センター運営活動
平成 18 年度	3		3		10
平成 19 年度	3	2	5	2	9
平成 20 年度	1		2	3	5
小計	7	2	10	5	24
総数	48				

(出典：センターからの報告)

《3》センター活動の詳細

平成 18 年度～平成 20 年 7 月までのセンター活動の詳細を表 4-1-1 (3) にまとめた。

表 4-1-1 (3) センター活動実績

開 発	サ ー ビ ス	I S M S	論 文	発 表	寄 稿	産 学 連 携	著 書	講 演	調 査	そ の 他	氏 名	: センターが独自にシステムを開発しそれを全学実サービスに供している活動 : 主に学内提供サービスに関する活動 : 主に ISMS (ISO/IEC27001) に関わる活動 : 研究論文・寄稿・・・査読付には「査読付」を明記 : 産学連携事業 : 学術雑誌への記事寄稿 : 研究発表・学会発表 : 著書 : 招待講演 : 調査・視察活動 : その他の顕著な活動 : 主に中心的な活動をしたセンター構成員の氏名			
日 付	種 類	氏 名	内 容												
<b>【平成 20 年度】</b>															
平成 20 年 9 月 16 日   9 月 17 日	【予定】 ISMS		項目名	: ISMS (ISO/IEC27001) 継続審査 外部審査機関 : 日本情報セキュリティ認証機構 (JACO-IS)											
9 月 12 日	【予定】 発表	八 卷 井 上 長 谷 川 高 橋 高 田 望 月	演題 発表 主催 場所	: グリーン IT 実現に貢献する SaaS、アウトソーシング戦略の推進 : 井上春樹, 八卷 直一, 長谷川孝博, 高橋秀年, 高田重利, 望月邦昭 (静岡大学) : 国立大学法人情報センター系交流・連絡会 : 高知大学 メディアの森 6 階 メディアホール											
9 月 12 日	【予定】 発表	長谷川	演題	: 情報セキュリティマネジメントシステム (ISMS) における効率的な 詳細リスクアセスメント											

			発表 主催 場所	実施手法の提案と情報処理センターへの適用 : 市川 哲彦, 永井 好和 (山口大学), 長谷川 孝 (静岡大学), 伊藤 賢 (ITSC), 三池秀敏 (山口大学) : 国立大学法人情報センター系交流・連絡会 : 高知大学 メディアの森 6 階 メディアホール
7月31日   8月1日	【予定】 ISMS		項目名	: ISMS (ISO/IEC27001) 内部監査 内部審査員 : 情報学部教員2名
7月17日	調査	長谷川	項目名 訪問先	: 宇都宮大学総合メディア基盤センターISMS 視察 : 宇都宮大学総合メディア基盤センター
6月21日	発表	井上	大会名 演題 主催 場所	: 第2回国立大学法人情報系センター ISMS 研究会プログラム : ISMS 中長期戦略 SaaS-BCP の実証実験報告 : 宇都宮大学 : キャンパスイノベーションセンター東京
6月6日	調査	八卷 井上	項目名 訪問先 内容	: 全国連合農学研究科 総会出席 : 日大生物資源科学部 (神奈川県藤沢市亀井野) : 全国連合農学研究科協議会 遠隔講義システムの調査
6月	開発	八卷 井上 長谷川	項目名 開発の 背景 特徴 導入コスト 展開	: 静岡大学用シンクライアントシステム 開発完了と実適用開始 : 素材は Sun Micro Systems の Sun Ray シンクライアントであるが、 そのままでは操作性、全学での日常的な運用が困難であるため大 学の事務、業務、教育に違和感なく使用できるシステムを開発す ることとした。 : 学内 LAN と同じアカウントでログインが可能。認証の統一を実現。 機能操作は Windows2003 の為、Windows XP や 2000 を使用している ユーザに違和感はない。また、制御サーバ、HDD は外部 iDC で稼働 しているためにセキュリティ水準は高い。 : サーバを全学共通基盤として整備した場合、シンクライアント側 の機器コストは 60 千円/台+LAN 敷設費用である。 : 6月30日に人文学部、こころの相談室に6セットを導入完了。問 題なく稼働中。今後、事務用、教育用、図書館などへの適用を検 討していく。
5月31日	産学連携	八卷 井上 長谷川	研究名 企業名 研究内容 期間 研究結果 報告書	: SaaS 型データセンターを活用するビジネスモデルと情報システム の研究 : 株式会社ビック東海 : (1) 大規模シンクライアントシステムの研究 (2) SaaS の研究 (3) サーバ委託型システムにおける ISMS の研究 (4) 大学 IT 資産のアウトソーシング研究 : 平成19年10月1日～平成20年5月30日 : 焼津のインターネットデータセンター (以下 SBC) と静岡、浜松キャンパスを LAN で結合し、新しい学内 LAN を構築した。初期の予定通り、平成20年6月1日より SBC で、 シンクライアント制御サーバ、ターミナルサーバ、遠隔講義シス テムサーバが実運用を開始した。 : 7月中に研究成果をまとめ報告予定である。

5月23日	調査	八巻 長谷川	項目名 訪問先 内容	: 東京農工大学情報基盤視察 : 東京農工大学総合情報メディアセンター : 全国連合農学研究科協議会 遠隔講義システムの調査
5月	論文	八巻 井上 長谷川	項目名 学会名 掲載誌 論文名 著者 内容 製品化	: 大学向け SNS である仮想ゼミナルシステム VSS 論文 JeLA 論文誌(査読付)に掲載 : 日本 e-Learning 学会 : JeLA 論文誌 Vol.8 平成 20 年 5 月号、p.14~22 : マルチメディア教材を活用した非同期型バーチャルゼミナル VSS の開発 : 井上春樹、八巻直一、長谷川孝博 (以上センター構成員) 他全 7 名 : 大学のゼミ、論文作成、講義などを支援する SNS として VSS (仮想ゼミナルシステム) をセンターで開発した。本システムについて構成、機能、性能及び適用効果を述べた。VSS は大学向け SNS として学内で有効に稼働している。 : (株)アーネットで製品化を行い一般に販売を開始した。
5月	発表	八巻	演題 発表 主催 場所	: 組織の意思決定支援の Web システムの開発 : 池谷友里, 水野信也, 八巻直一 : 日本経営工学会 : 電気通信大学
5月	発表	八巻	演題 発表 主催 場所	: 輸送ネットワークと安全在庫配置の同時改善解の算出 : 水野信也, 高井英造, 八巻直一 : 日本経営工学会 : 電気通信大学
4月	開発	八巻 井上 長谷川	項目名 特徴 導入コスト 今後の展開	: 新遠隔講義システムの運用を開始 : HD 仕様の TV 会議システムに加え、高解像度映像 (HD) による WEB 配信システムを開発し適用した。従来の WEB による配信は Media Player, Flash などを用いていたため、映像の解像度が低く、かつエンコード + 配信に 15~30 秒の遅延時間が発生していた。これに対し本システムは HD 仕様、かつ遅延時間 1.2~1.8 秒を実現した。 : 従来の 1/2-1/4 を実現した。 : 従来のシステムが設置されている他 6 教室も本システムに置き換えて行く予定である。また、他の共通教室の IT 化も推進していく。
4月	開発	八巻 井上 長谷川	項目名 特徴 運用効率・セキュリティ 導入コスト	: 電子掲示板による案内システムの運用を開始 (静岡キャンパス) : パソコンのディスプレイ出力を LAN 上に配信し、表示したい個所に専用の受信装置を設置することで市販の大型液晶 TV を接続可能とした。 1 台の PC で最大で 16 台のディスプレイ上に同じコンテンツを表示できる。 : コンテンツ制御用パソコンはセンター分室にて管理できるので運用効率が高く、セキュリティ的な問題も同時に解消できる。 : 従来の電子表示板システムの価格は 2,000 千円/セット程度であったので、多数の設置は困難であった。今回開発したシステムを構成するディスプレイは市販の 32 インチサイズで約 90 千円、専用の受信装置は約 60 千円/台程度である。従って設置工事などを含めても 1 か所 200 千円程度で導入できる。従来の 1/10 程度である

			展開 コンテンツ	<p>ので限られた予算で多数を設置できる。</p> <p>: 各部署に紹介し、必要な部署での導入を支援していく。</p> <p>: 全学共通のお知らせ、YAHOO/気象庁からのニュース天気予報情報、センターからの日々のお知らせ、その他即時性が必要な情報を毎日更新中。</p>
<b>【平成 19 年度】</b>				
3 月 25 日	講演	長谷川	<p>項目名 : セキュリティマネジメントセミナー</p> <p>主催 : 日比谷総合設備株式会社</p> <p>場所 : グランパークタワー (東京)</p> <p>演題 : 情報セキュリティマネジメントシステムの効率的な運用と境界のセキュリティ</p> <p>講師 : 長谷川孝博</p>	
2 月	著書	井上	<p>書名 : IDM アイデンティティ・マネジメント入門</p> <p>著者 : 井上春樹 他</p> <p>出版社 : 静岡学術出版 理工学新書 07004</p> <p>ISBN : 978-4-903859-07-1</p> <p>発行者 : 井上春樹</p> <p>内容 : 組織の内部統制を実現するための本質的なソリューションである IDM について分かりやすく解説している。国内で初めての IDM の入門書、教科書として活用されている。</p>	
1 月 31 日	講演	八巻	<p>項目名 : イノベーションビジネスマッチング</p> <p>主催 : 財団法人浜松地域テクノポリス推進機構</p> <p>場所 : グランドホテル浜松</p> <p>演題 : 学術機関での情報セキュリティに対する取り組み知識発信のための新出版事業</p> <p>講師 : 八巻 直一</p>	
平成 19 年 12 月 21 日	発表	八巻 井上 長谷川	<p>大会名 : 第 1 回国立大学法人情報系センター ISMS 研究会プログラム</p> <p>演題 :</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・セマンティック WEB の活用の研究 静岡大学大学院工学研究科 渡邊 都代史</li> <li>・ディザスタリカバリシステムについて 静岡大学大学院工学研究科 岡田 吉弘</li> <li>・大学における ISMS の取り組みについて 静岡大学総合情報処理センター長 八巻 直一</li> <li>・静岡大学における ISMS 確立、ISO27001 認証取得事例 —全体像・資産管理とリスクアセスメント・文書管理— 静岡大学総合情報処理センター准教授 長谷川 孝博</li> <li>・大学におけるソフトウェアライセンス管理とコンプライアンス 静岡大学総合情報処理センター准教授 井上 春樹</li> </ul> <p>主催 : 静岡大学 総合情報処理センター</p> <p>・立案 ・発起</p> <p>場所 : キャンパスイノベーションセンター東京</p>	
12 月 9 日	講演	八巻	大会名 : PMF 関西第 4 回意思決定研究会	

			主催 場所 演題 講師	: PMF 関西意思決定研究会 : 大阪市立総合生涯学習センター : OR(オペレーションズ・リサーチ)の世界 : 八巻 直一
12月	著書	長谷川 井上 八巻	書名 著者 出版社 ISBN 発行者 内容	: 実戦 ISMS 講座 —情報セキュリティマネジメントと経営戦略— : 長谷川孝博・井上春樹・八巻直一 他 : 静岡学術出版 理工学新書 07003 : 978-4-903859-08-8 : 井上春樹 : 情報セキュリティ管理に関する国際認証の静岡大学での取得事例を中心に、大学や企業での ISMS 実現の具体策を述べている。
12月	発表	井上 八巻 長谷川	演題 発表 主催 場所	: マルチメディア教材を活用した非同期型バーチャルゼミナールシステム VSS の開発 : 井上春樹, 八巻直一, 長谷川孝博(静岡大学総合情報処理センター), 上田芳伸(静岡大学工学部), 岡田安人, 中岸哲也, 林桂二(㈱アーネット) : 日本 e-Learning 学会 : 琉球大学
12月	著書	八巻	書名 著者 出版社 ISBN 内容	: 企業・行政のための AHP 事例集 意思決定支援ツールの上手な活用法 : 編著: 木下栄蔵・大屋隆生 事例8: 八巻 直一 : (株)日科技連出版社 : 978-4-8171-9248-6 : 意思決定支援法 AHP を企業・行政に適用する事例を中心に集められたものであり、著者の事例は情報セキュリティに関するものである。
11月	発表	八巻 井上	演題 発表 主催 場所	: 情報セキュリティにおける事故の推定方法に関する研究 : 石野正彦(三菱電機 IT), 八巻直一(静岡大学), 井上春樹(静岡大学) : 経営情報学会 : 静岡大学
11月	発表	八巻 長谷川	演題 発表 主催 場所	: 情報セキュリティマネジメントに対するセマンティックウェブの適用 : 渡邊都代史(静岡大学), 清水昇((株)サイバーエッジ), 長谷川孝博(静岡大学), 八巻直一(静岡大学) : 経営情報学会 : 静岡大学
11月	発表	八巻 長谷川	大会名 演題 発表 場所	: 経営情報学会 2007 年秋季全国研究発表大会 : 詳細リスク分析法に基づく新しい情報セキュリティリスクアセスメント手法 : 長谷川孝博(静岡大学), 伊藤賢((株)ITSC), 渡邊都代史(静岡大学), 八巻直一(静岡大学工学部) : 静岡大学
11月	発表	八巻	演題 発表	: テレビ CM の割付問題 : 仲神潤, 八巻直一

			主催 場所	: 経営情報学会東海支部 : アクトシティ浜松研修交流センター
11月	発表	八巻	演題 発表 主催 場所	: 大規模 AHP の適用例 : 児玉和俊, 八巻直一 : 経営情報学会東海支部 : アクトシティ浜松研修交流センター
11月	発表	八巻 井上	演題 発表 主催 場所	: ディザスタリカバリーシステムについて : 八巻直一(静岡大学), 井上春樹(静岡大学), 岡田吉弘(静岡大学) : 経営情報学会 : 静岡大学浜松キャンパス
10月	発表	八巻	演題 発表 主催 場所	: Excel を用いたモデリングと線形計画法 : 八巻直一 : 日本オペレーションズ・リサーチ学会中部支部 : 第二豊田ビル
10月	発表	八巻	演題 発表 主催 場所	: Excel を用いたモデリングと線形計画法 : 八巻直一 : OR 学会中部支部 : 南山大学数理情報研究センター
10月	開発	八巻 井上 長谷川	項目名	: フェリカに対応した新しい学生証を利用したパスワード再発行システム : パスワードの窓口での発行時間を 30 秒程度に短縮。本システム導入以前は翌日渡しであった。
10月	論文	井上 長谷川	論文名 掲載誌 著者	: 大学の IT コンプライアンス ーソフトウェア違法コピー 対策は今後の大学運営の鍵！ー : 経営情報学会誌, 査読無, 16, No. 2, 86-91 : 井上春樹, 長谷川孝博
10月	開発	八巻 井上 長谷川	項目名 特徴 導入コスト 展開	: 指静脈認証システムの開発 : 指静脈パターンのユニーク性に着目した個人認証システムを開発し、CIO 応接室の入退室管理システムに適用した。日立ほかの従来方式とは異なる独自のアルゴリズムを用いている。従来方式に比較し認証精度、認証成功確率は同等以上を得た。 : 本システムは、指静脈認証以外に、Felica カード、テンキーによる認証装置も内蔵している。これらと同等な従来の製品に比較し 1/2 以下を実現した。 : キャンパス内のビル、フロア、教室毎の必要セキュリティ水準を調査し、それに応じた認証方式を適用していく。
9月25日   9月27日	その他	八巻 長谷川	項目名 場所 概要 参加人数	: ISMS 実践基礎セミナー 東海地区技術職員研修(3 日間のコース) をセンター主導で実施 : 浜名湖国際頭脳センター : ISMS の概略の説明、モデルケースを設定し ISMS 構築を演習形式で行う。基本方針、適用範囲のレイアウトなどの設計、資産の洗い出しとリスクアセスメント、管理策の適用とリスク対応計画の策定、手順書・手引きの策定、管理策の有効性の測定。講義形式、グループ演習形式、発表形式。 : 25 名 (5 名で 1 グループ)

			講演者	: 八巻直一、長谷川孝博
9月18日   9月19日	ISMS		項目名	: ISMS (ISO/IEC27001) 継続審査 外部審査機関 : 日本情報セキュリティ認証機構 (JACO-IS)
9月4日	ISMS		項目名	: ISMS (ISO/IEC27001) の規格基準に基づくマネジメントレビューを実施
8月24日	講演	井上	項目名 主催 場所 演題 講師	: IT ソリューションフォーラム 2007 : 株式会社ビック東海 : 静岡市ベルアージュ 大ホール : SaaS 型データセンターを活用する IT 資産外部委託型経営のご提案 : 井上春樹
8月	論文	八巻	論文名 学会名 掲載誌  著者 内容	: 何となく意思決定(AHP の紹介) : 理大科学フォーラム : 東京理科大学 科学教養誌 「理大 科学フォーラム」 2007年8月号 p.42-47  : 八巻直一 : 意思決定支援法 AHP の易しい解説
8月	論文	八巻 長谷川	論文名 掲載誌 著者	: [雑誌特集企画] 特集 情報セキュリティ 八巻直一 監修 : 経営システム, 17, No. 3, 185-224 : 八巻直一・長谷川孝博ら他4名
8月	論文	長谷川	論文名 掲載誌 著者	: 大学における ISMS の役割 : 経営システム, 査読無, 17, No. 3, 219-224 : 長谷川孝博
7月30日   7月31日	ISMS		項目名	: ISMS (ISO/IEC27001) 内部監査 内部審査員 : 情報学部教員2名
7月26日	調査	八巻 長谷川	項目名 訪問先 訪問者 内容	: 大阪大学サイバーメディアセンター視察 : 大阪大学サイバーメディアセンター 吹田キャンパス 本部 : 八巻センター長, 長谷川孝博 : 全学認証基盤システム、Single Sign On(SSO)システム、 各種情報サービス、組織構成・規模等の調査
7月	サービス	八巻 井上 長谷川	項目名	・総合情報処理センター学内トップページの刷新 ・学内ユーザに対して、サービス内容を整理・明確化 全て自主制作による
7月	寄稿	井上	掲載誌名 タイトル 執筆者 出版社 ISBN	: 月刊ソリューション IT, 第220号, p.67 : DTP ディスクトップパブリッシング : 井上春樹 : リックテレコム社 : 1346-1923
6月26日	講演	井上	項目名 主催 場所 演題 講師	: インターネット活用技術とコンプライアンスセミナー : 独立行政法人 海技教育機構 : 国立清水海上技術短期大学校 (静岡県清水区折戸3丁目) : インターネット活用技術と IT コンプライアンス : 井上春樹
6月21日	講演	井上	項目名 主催	: IT コンプライアンスに関する招待講演 : New Educational EXPO2007 実行委員会

			場所	: New Educational EXP02007, 大阪マーチャндаイズマート (大阪)
			演題	: 大学の IT コンプライアンス 問題点と解決策
			講師	: 井上春樹
6月7日	講演	井上	項目名	: IT コンプライアンスに関する招待講演
			主催	: New Educational EXP02007 実行委員会
			場所	: New Educational EXP02007, 東京ビックサイト (東京)
			演題	: 大学の IT コンプライアンス 問題点と解決策
			講師	: 井上春樹
6月	著書	八巻 長谷川 井上	項目名	: 大学の IT コンプライアンス
			著者	: 八巻直一・長谷川孝博・井上春樹 他
			出版社	: 静岡学術出版 理工学新書 07002
			ISBN	: 978-4-903859-02-6
			発行者	: 井上春樹
			内容	: 静岡大学で実施したソフトウェアライセンス適正活動など、大学に求められる IT コンプライアンス事項とその実践例を紹介している。
6月	寄稿	井上	掲載誌名	: 月刊ソリューション IT, 第219号、p.33
			タイトル	: SS0: シングルサインオンの現況と今後
			執筆者	: 井上春樹
			出版社	: リックテレコム社
			ISBN	: 1346-1923
5月25日	調査	八巻 井上 長谷川	項目名	: 広島大学情報基盤視察
			訪問先	: 広島大学情報メディア教育研究センター
			訪問者	: 八巻直一、長谷川孝博
			内容	: 全学統合認証システムに関する調査・視察
5月	発表	八巻	演題	: MSn を利用する Denovo シーケンサーの開発
			発表	: 梶原茂樹, 安藤和敏, 関谷和之, 八巻直一, 岩本慎一
			主催	: 日本質量分析学会第55回質量分析総合討論会
			場所	: 広島国際会議場
5月	寄稿	井上	掲載誌名	: 月刊ソリューション IT, 第218号、p.58
			タイトル	: BCP 大災害時のビジネス継続計画の現状と今後
			執筆者	: 井上春樹
			出版社	: リックテレコム社
			ISBN	: 1346-1923
4月12日	講演	長谷川	項目名	: 情報セキュリティ研修会にて招待講演
			主催	: 株式会社 日本情報セキュリティ認証機構
			場所	: 経団連会館 (東京千代田区大手町)
			演題	: 効率的な ISMS について
			講師	: 長谷川孝博
4月	サービス		内容	: コンテンツフィルタによる附属小中学校の保護開始
4月	サービス		内容	: 実習室6で視覚補助PCの運用開始
4月	寄稿	井上	掲載誌名	: 月刊ソリューション IT, 第217号、p.61
			タイトル	: MMAP マインドマップの現状と今後
			執筆者	: 井上春樹
			出版社	: リックテレコム社



			ISBN	: 1346-1923
<b>【平成 18 年度】</b>				
3月31日	活動 報告書	八卷 井上 長谷川	項目名 詳細	: IT コンプライアンス活動報告書 : ITCP 委員長 (八卷直一)、ITCP 委員 (井上春樹・長谷川孝博、他全学委員) からなる ITCP 委員会により全学ソフトウェアライセンス調査の実施報告書を完成
3月	発表	長谷川	項目名  発表者	: "Construction and tests of the fully diskless cluster system using educational personal computer system", Y. Inoue and T. Hasegawa, The Abstract of International Symposium on Dynamical Systems Theory and Its Applications to Biology and Environmental Sciences, 2, 149 (March, 2007) : 長谷川孝博
3月	論文	井上	論文名 著者 掲載誌名	: 内部統制の最重要ポイントは IT コンプライアンスの確立 : 井上春樹 : 月刊ソリューション IT 誌, 2007, No. 216
3月	寄稿	井上	掲載誌名 タイトル 執筆者 出版社 ISBN	: 月刊ソリューション IT, 第 216 号、p. 59 : ACO 蟻コロニー運動最適アルゴリズムの現状と今後の動向 : 井上春樹 : リックテレコム社 : 1346-1923
2月28日	講演	長谷川	セミナー名 主催 場所 講師	: 一般企業向け ISMS セミナー : 株式会社 ITSC : アクトシティ浜松研修交流センター51 研修交流室 : 長谷川孝博
3月	論文	井上	論文名 著者 学会名 掲載誌名	: 日本版 SOX 法に対応する内部統制フレームワークの提案 : 井上春樹 : 日本経営工学会 : ジャーナル, 2007, 16, No. 6
2月、3月	論文	井上	論文名 著者 掲載誌名	: J-SOX 公開草案の行間を読む : 井上春樹 : 月刊ソリューション IT 誌, 2007/215, p. 36-40、2007/216, p. 22-28
2月	寄稿	井上	掲載誌名 タイトル 執筆者 出版社 ISBN	: 月刊ソリューション IT, 第 215 号、p. 51 : ITIL 情報技術ライブラリー、IT サービスの現状と今後の動向 : 井上春樹 : リックテレコム社 : 1346-1923
1月18日	講演	長谷川	セミナー名 主催 場所 講師	: 一般企業向け ISMS セミナー : 株式会社 ITSC : アクトシティ浜松研修交流センター52 研修交流室 : 長谷川孝博
1月16日	ISMS	八卷 長谷川	項目名 訪問先 訪問者 内容	: 徳島大学情報基盤視察 : 徳島大学 高度情報化基盤センター : 八卷直一、長谷川孝博 : 情報基盤の視察と ISMS に関する情報交換
1月	ISMS		項目名	: 他大学情報系センターに対して、ISMS 認証取得のためのコンサル

				活動を開始 →平成20年10月 ISO/IEC27001 認証取得予定
1月	寄稿	井上	掲載誌名 タイトル 執筆者 出版社 ISBN	: 月刊ソリューション IT, 第214号、p.55 : SaaS ソフトウェア&サービスの現状と今後の動向 : 井上春樹 : リックテレコム社 : 1346-1923
平成18年 12月	寄稿	井上	掲載誌名 タイトル 執筆者 出版社 ISBN	: 月刊ソリューション IT, 第213号、p.55 : BSA ビジネスソフトウェアアライアンスの現状と今後の動向 : 井上春樹 : リックテレコム社 : 1346-1923
11月	寄稿	井上	掲載誌名 タイトル 執筆者 出版社 ISBN	: 月刊ソリューション IT, 第212号、p.83 : コンプライアンス 現状と今後の動向 : 井上春樹 : リックテレコム社 : 1346-1923
11月25日	ISMS		項目名	: ISMS 認証規格 BS7799 Ver. 2.0 から ISO/IEC27001 の切り替え審査完了 本学初の ISO 規格認証取得機関となる
10月10日   10月11日	ISMS		項目名	: ISMS 認証規格 BS7799 Ver. 2.0 から ISO/IEC27001 の切り替え審査外部審査機関 : 日本情報セキュリティ認証機構 (JACO-IS)
10月3日	ISMS		項目名	: ISMS (ISO/IEC27001) の規格基準に基づくマネジメントレビューを実施
10月2日	ベンチャー起業	井上 長谷川	項目名 業務内容 主な活動	: 静岡大学発ベンチャー企業 株式会社 ITSC を起業 : ISMS 認証取得事業、出版事業、IT サポート事業 : 井上春樹 (静岡学術出版) → 平成20年5月取締役辞任 長谷川孝博 (ISMS コンサルタント)
10月	ISMS		項目名	: 全学 IT コンプライアンス推進室の主要構成員として活動開始 委員長 : 八巻直一 大谷キャンパス推進室長: 井上春樹 城北キャンパス委員 : 長谷川孝博
10月	サービス		項目名	: WEB メールシステムの稼働開始 全学生とセンターのアカウントを持つ教職員は、学外からメールの送受信が可能となる。
10月	発表	八巻	演題 発表 主催 場所	: ネットワーク型サプライチェーンの解析法の提案 : 水野信也, 八巻直一, 高井英造 : スケジューリング学会 : 金沢工業大学
10月	発表	八巻	演題 発表 主催 場所	: GA を用いた自由形状物を含む3次元積み付け問題の解放 : 中村和文, 八巻直一, 高井英造 : スケジューリング学会 : 金沢工業大学
10月	寄稿	井上	掲載誌名 タイトル	: 月刊ソリューション IT, 第211号、p.46 : シンククライアント 現状と今後の動向

			執筆者 出版社 ISBN	: 井上春樹 : リックテレコム社 : 1346-1923
9月	論文	長谷川	論文名 著者 掲載誌名	: 全学プライベート IP 網の構築と運用 : 長谷川孝博・望月邦昭・高橋秀年・高田重利・井上春樹・八巻直一 : 学術情報処理研究, 査読有, 10, 29-38 (2006), 査読付
9月	寄稿	井上	掲載誌名 タイトル 執筆者 出版社 ISBN	: 月刊ソリューション IT, 第 210 号、p. 49 : OHSAS 現状と今後の動向 : 井上春樹 : リックテレコム社 : 1346-1923
8月23日   8月24日	ISMS		項目名	: ISMS (ISO/IEC27001) 内部監査 内部審査員 : 情報学部教員 2 名
8月	寄稿	井上	掲載誌名 タイトル 執筆者 出版社 ISBN	: 月刊ソリューション IT, 第 209 号、p. 83 : ISMS 情報セキュリティシステムの現状と今後の動向 : 井上春樹 : リックテレコム社 : 1346-1923
7月12日	講演	八巻	セミナー名 演題 発表 主催 場所	: 富士ゼロックスセキュリティセミナー : 静岡大学社会人修士課程と情報セキュリティ論 : 八巻 直一 : 浜名湖クラブ : 浜松市地域情報センター
7月	発表	八巻	演題 発表 主催 場所	: Proposed method for recommending goods u... : Masahiko Ishino, Naokazu Yamaki, Teruhisa Ichikawa and Tadanori Mizun : 日本機械学会生産システム部門、スケジューリング学会 : アルカディア市ヶ谷私学会館
7月	寄稿	井上	掲載誌名 タイトル 執筆者 出版社 ISBN	: 月刊ソリューション IT, 第 208 号、p. 43 : IPS インターネット防御システムの現状と今後の動向 : 井上春樹 : リックテレコム社 : 1346-1923
6月	論文	井上	論文名 著者 掲載誌名	: 時間サプライチェーン輸配送計画システムの開発 : 井上春樹・船生豊・佐々木淳・米田多江 : 日本ロジスティクスシステム学会論文誌, 査読有, 6
6月	発表	八巻	演題 発表 主催 場所	: 人員制約を考慮したスケジューリング問題 : 西村伸矢(静岡大学), 八巻直一(静岡大学), 高井英造(和光大学) : オフィスオートメーション学会・経営情報学会 : 中央大学
6月	発表	八巻	演題 発表 主催 場所	: GA を用いた不定形を含む 3 次元積み付け問題の解法 : 中村知文・八巻直一(静岡大学), 高井英造(和光大学) : 経営情報学会 オフィス・オートメーション学会 : 中央大学

6月	発表	八巻	演題 発表 主催 場所	: 顧客の嗜好変化に対する学習機能を持った商品推奨法 : 石野正彦・八巻直一・市川照久・水野忠則(静岡大学) : 経営情報学会 : 中央大学
6月	寄稿	井上	掲載誌名 タイトル 執筆者 出版社 ISBN	: 月刊ソリューション IT, 第207号、p.73 : 創発 現状と今後の動向 : 井上春樹 : リックテレコム社 : 1346-1923
5月	発表	八巻	演題 発表 主催	: ネットワーク型サプライチェーンの解析 : 水野信也・八巻直一・高井英造 : 日本経営工学会 2006年春季研究発表大会
5月	発表	八巻	演題 発表 主催 場所	: MSn を利用する Denovo シーケンサーの開発 : 梶原茂樹, 安藤和敏, 関谷和之, 八巻直一, 岩本慎一 : 経営情報学会 : 広島国際会議場
5月	寄稿	井上	掲載誌名 タイトル 執筆者 出版社 ISBN	: 月刊ソリューション IT, 第206号、p.62 : CSR 企業の社会的責任の現状と今後の動向 : 井上春樹 : リックテレコム社 : 1346-1923
4月	寄稿	井上	掲載誌名 タイトル 執筆者 出版社 ISBN	: 月刊ソリューション IT, 第205号、p.45 : MPI メッセージバッシングインターフェースの現状と今後の動向 : 井上春樹 : リックテレコム社 : 1346-1923
	論文	長谷川	論文名 著者 掲載誌名	: Thermodynamics on hydride vapor phase epitaxy of AlN using AlCl <sub>3</sub> and NH <sub>3</sub> : Y. Kumagai, K. Takemoto, J. Kikuchi, T. Hasegawa, H. Murakami and A. Koukitu : <i>Phys. stat. sol.</i> , <b>243</b> , 1431-1435
	論文	長谷川	論文名 著者 掲載誌名	: An effective method to increase solvability in biochemical systems using S-system : T. Hasegawa and J. Yoshimura : <i>Mathematical Biosciences</i> , <b>201</b> , 125-142 (平成18年), 査読付

(出典: センターからの報告)

## 【分析結果とその根拠理由】

平成18年度～平成20年7月までの2年4ヶ月間のセンター活動を詳述した表4-1-1(3)センター活動実績表を分析する。

- ① 研究論文: 27件の論文を発表している。
- ② 著書: 総計で4冊の出版を達成している。
- ③ 講演: 33件の招待講演、研究発表、学会発表を実施している。
- ④ システム開発・運用: 5つの独自システムをセンターが独自に開発しそれらを全学実サービスに供している。

- ⑤ センター運営活動：31件の調査、視察、産学連携活動、ISMS、IT コンプライアンスなど顕著なセンター運営活動が行われている。

#### 4-1-2 目的に照らして、活動の成果が上がっているか。

##### 【観点に係る状況】

センターのそれぞれの目的に対し下記の活動がなされており、顕著な活動成果が達成されている。

- ① 学術研究のための、科学技術計算及びデータ処理支援に関すること：前記活動内容のうちの研究活動
- ② 情報処理教育のための、電子計算機システムの利用支援に関すること：前記活動内容のうちセンターの管理する実習室、ならびに全学 LAN の運営活動で実施
- ③ 学外の情報ネットワークとの連携及びその利用に関すること：前記活動内容のうち、産学連携の共同研究、全学 LAN の運営活動で実施
- ④ 本学キャンパス情報ネットワークに関すること：前記活動内容のうちセンターの管理する実習室、ならびに全学 LAN の運営活動で実施
- ⑤ 電子計算機システム及び情報ネットワーク利用者に対する技術指導に関すること：前記活動内容のうちセンターの管理する実習室、ならびに全学 LAN の運営活動で実施
- ⑥ 情報処理システムの研究及び開発に関すること：前記活動内容のうち研究活動、外部への発表、及び出版活動で実施
- ⑦ 事務処理のための、電子計算機システムの利用に関すること：前記活動内容のうちセンターの管理する実習室、ならびに全学 LAN の運営活動で実施
- ⑧ その他第2条の目的を達成するために必要な業務：前記活動内容のすべてで実施

添付資料

規則 - 1 静岡大学総合情報処理センター規則

##### 【分析結果とその根拠理由】

前記、表4-1-1 (3) センター活動実績表で示した通り、各目的に対する活動がバランスよく行われている。また、量的にも十分といえる。

#### (2) 優れた点及び改善を要する点

##### 【優れた点】

研究論文、著書、講演は2年4カ月で64件の実績がある。これはほぼ1カ月に1件の実績になる。この結果、質、量ともに十分な活動を実施されていると言える。また、大学へのシステム導入において、本学の実情を十分解析したうえで、独自のシステムを5件開発しいずれも実運用適用しており大きな効果をあげている。以上により、現状の組織、人員にて十分な開発活動を行っていると言える。

##### 【改善を要する点】

増大する大学全体からのニーズに対して教員数、技術職員数など構成員数が不足している。また、全学の課題、ニーズに十分応えるためには、組織の位置づけ、構成の改善が必要である。

### (3) 基準4の自己評価の概要

本センターは、本学の学内共同教育研究施設として、センターの電子計算機システム及び本学の通信・情報ネットワークを管理運用し、本学の研究、教育、学術情報サービス及び事務処理のための利用に供することにより、本学における情報処理の推進に寄与することを目的とする。

これに対し、本センターでは各分野の専門家を構成員とし、学術研究のための、科学技術計算及びデータ処理に関する研究・運用、情報処理教育のための電子計算機システムの利用に関する管理・運用、学外の情報ネットワークとの連携及びその利用に関する研究・運用、本学キャンパス情報ネットワークに関する研究・運用、電子計算機システム及び情報ネットワーク利用者に対する技術指導に関する運用、情報処理システムの研究及び開発、事務処理のための、電子計算機システムの利用に関する研究・運用を積極的に行っている。

これらの目的を達成する為、平成18年～平成20年7月までの2年4カ月の間に、研究論文27件発表、著書を総計で4冊出版、招待講演、研究発表、学会発表を33件実施、独自システムの開発・運用を5件実施、調査、視察、産学連携活動、ISMS、ITコンプライアンスなど31件の顕著なセンター運営活動が行われている。また、それらは社会に広く公表されている。

#### 添付資料

規則－1 静岡大学総合情報処理センター規則

URL－3 静岡大学総合情報処理センター規則 ホームページ

## 基準 5 施設・設備

### (1) 観点ごとの分析

5-1 目的に対応した施設・設備が 整備され、有効に活用されていること。

(基本的な観点)

5-1-1 目的の実現にふさわしい施設・設備が整備され、有効に活用されているか。また、施設・設備のバリアフリー化への配慮がなされているか。

#### 【観点到係る状況】

図 5-1-3 (1) のネットワーク構成図に示される通り、浜松キャンパス、静岡キャンパスの全ての施設に高速通信回線が敷設されている。両キャンパスは、焼津市にあるインターネットデータセンターを中継点に 10Gbps の帯域を有する高速回線で接続されている。

各フロアにはくまなく LAN 接続用フロアスイッチが設置され、利用者は容易にパソコンやサーバを学内 LAN に接続できる。

メールサーバー、DNS、IDS、IPS など全学共通の業務を行うサーバはセンターのサーバ室に格納され、高水準の情報セキュリティ管理、入退室管理、温湿度管理が行われている。

情報教育を行う実習室には総計で約 500 台のパソコンが配備されており、様々な教育支援ソフトウェアがセンターにより管理されている。

浜松、静岡両キャンパスには総計で 8 教室に TV 会議システムが設置されており、これを用いた遠隔講義を可能としている。

#### 【分析結果とその根拠理由】

大学の規模に対して十分な IT 機器と十分な容量を有するネットワークが構築されている。また、一部の実習室には視覚障害者支援機能を装備しておりバリアフリーを実現している。

5-1-2 施設・設備の運用に関する方針が明確に規定され、構成員に周知されているか。

#### 【観点到係る状況】

施設・設備の運用についての方針、並びに運用フローはすべて ISMS の公式文書（添付）に記載されている。また、運用フロー、操作フロー、緊急時の対応フローについてはサーバ室などの現場に掲示されている。

#### 【分析結果とその根拠理由】

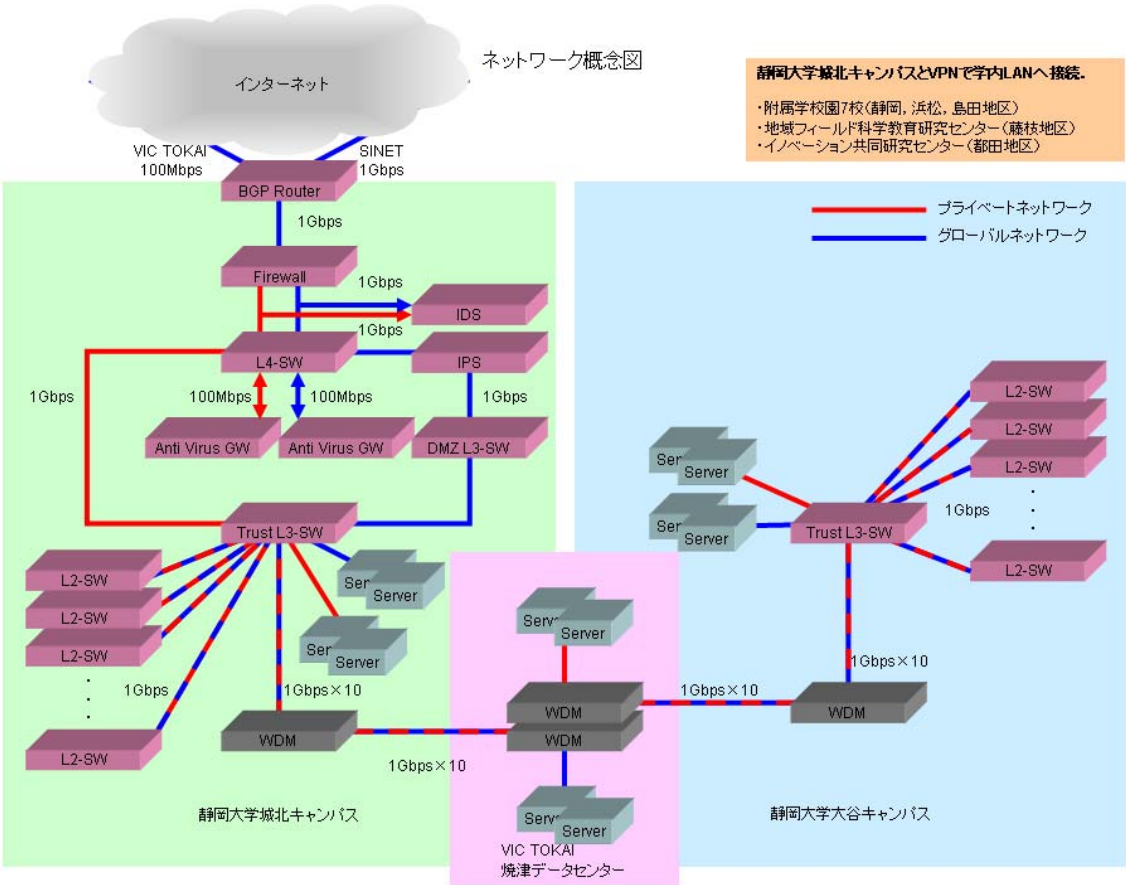
ISMS の文書は、定期的な ISMS 会議、および定期的な内部監査、外部審査機関による監査により頻繁な見直しと交信が行われているため構成員に十分周知されている。また、運用フロー、操作フロー、緊急時の対応フローについてはサーバ室などの現場に掲示されているため、問題が発生したときに誤りなく作業を実施できる体制が取られている。

5-1-3 学生、教職員、その他学外関係者のニーズを満たす情報ネットワークが適切に整備され、有効に活用されているか。

【観点に係る状況】

平成20年7月時点での学内ネットワーク構成と外部との接続、および実習室のレイアウトを以下に図にて示す。

図5-1-3 (1) ネットワーク構成図

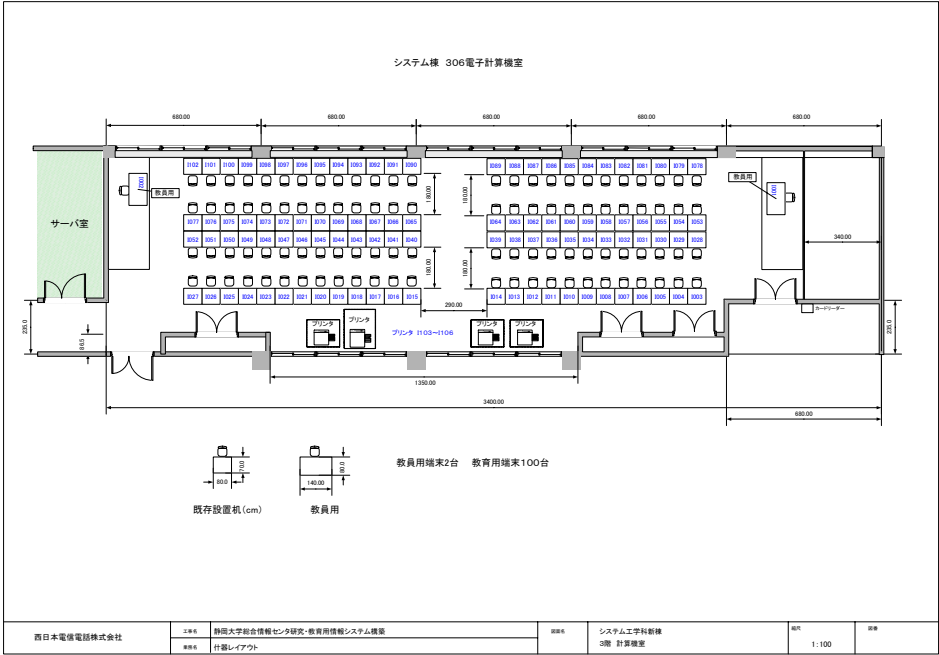


(出典：センターからの報告)

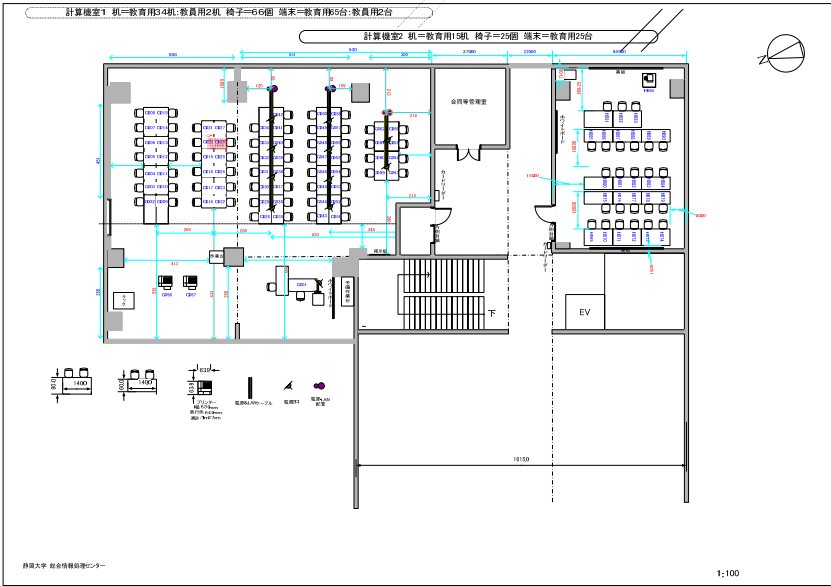


図5-1-3 (2) 教育用実習室 (平面図)

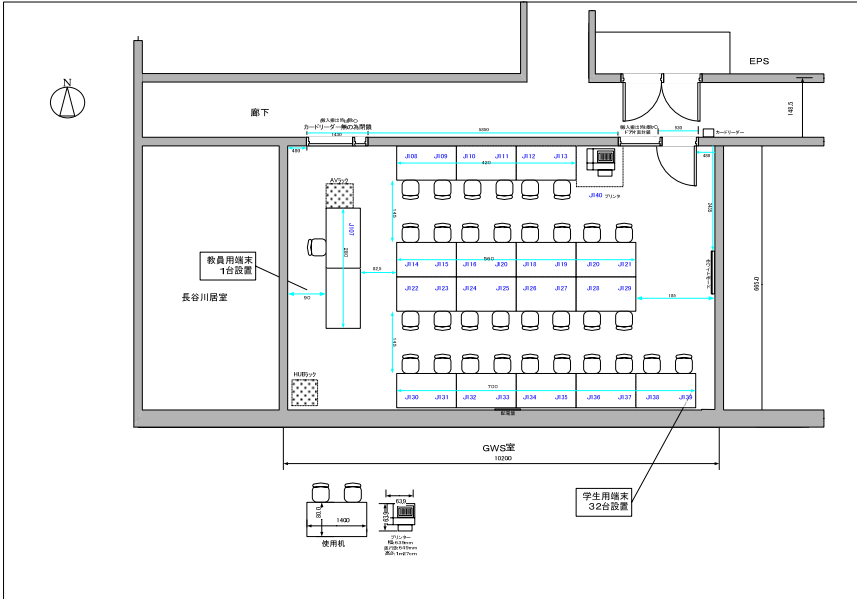
【浜松1】



【浜松2】



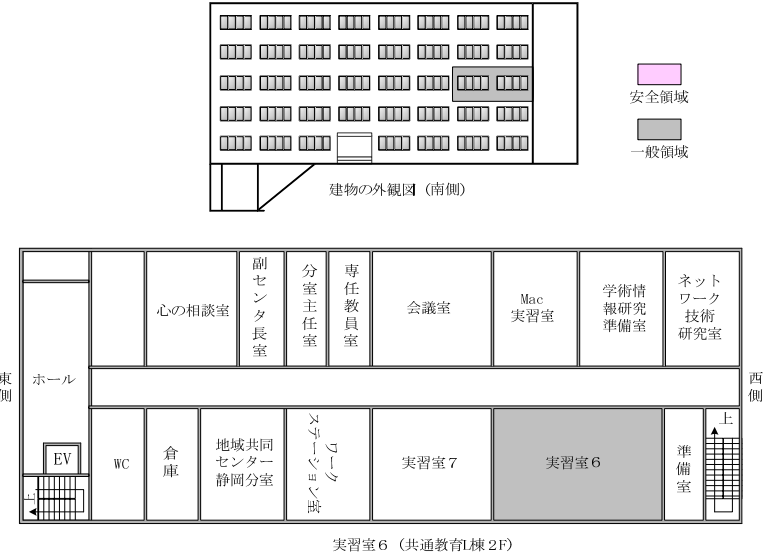
【浜松3】



【静岡1】



【静岡2】



(出典：センターからの報告)

【分析結果とその根拠理由】

すべての施設に高速LANが整備されている。また、それに接続するために必要なフロアスイッチが十分な数だけ配備されている。

## (2) 優れた点及び改善を要する点

### 【優れた点】

- ・図5-1-3(1)のネットワーク構成図に示される通り、浜松キャンパス、静岡キャンパスの全ての施設に漏れなく高速通信回線が敷設されており、利用者は容易に学内の高速LANおよび情報施設を利用できる体制が整備されている。
- ・両キャンパスは、焼津市にあるインターネットデータセンターを中継点に10Gbpsの帯域を有する高速回線で接続されている。これにより、空間的に100km近く離れている2つのキャンパスの情報交換がスムーズになっており、教育・研究を強力に支援している。
- ・各フロアにはくまなくLAN接続用フロアスイッチが設置され、利用者は容易にパソコンやサーバを学内LANに接続できる。フロアスイッチは認証機能を有しておりセキュリティ管理が高い水準にある。
- ・メールサーバー、DNS、IDS、IPSなど全学共通の業務を行うサーバはセンターのサーバ室に格納され、高水準の情報セキュリティ管理、入退室管理、温湿度管理が行われているため、信頼性が高く、利用者は安心して活用できる。
- ・情報教育を行う実習室には総計で約500台のパソコンが配備されており、様々な教育支援ソフトウェアがセンターにより管理されている。これにより、教育を強力に支援できている。
- ・浜松、静岡両キャンパスには総計で8教室にTV会議システムが設置されており、これを用いた遠隔講義を可能としている。これにより、空間的な移動なしに遠く離れたキャンパスで行われている講義や講演を視聴することができる。また、各種会議も移動なしに実施出来ている。

### 【改善を要する点】

- ・一部に適用済みの視聴覚障害者などの支援機能を、今後、全学に展開する必要がある。
- ・特に夜間主や社会人学生に対して、夜間延長開放や休日開放を実現する必要がある。

## (3) 基準5の自己評価の概要

教育・研究支援に十分なIT機器が設置され運用されている、と評価することができる。

添付資料

資料-3 ISMS文書

## 基準6 財務

### (1) 観点ごとの分析

- 6-1 目的を達成するために、活動を将来にわたって適切かつ安定して遂行できるだけの財務基盤を有していること。
- 6-2 目的を達成するための活動の財務上の基礎として、適切な収支に係る計画等が策定され、履行されていること。

(基本的な観点)

#### 6-1-1 目的を達成するために、活動を将来にわたって適切かつ安定して遂行できるだけの財務基盤を有しているか。

##### 【観点に係る状況】

平成18年度、平成19年度の、センターの予算、決算を示す。平成18年度の予算は216,970千円に対し、決算（支出）は210,034千円であり、6,936千円の剰余金が出ている。この剰余金は遠隔講義システムの改善用であり次年度以降に繰り越したものである。決算のうち、SCS維持管理費、ネットワーク維持管理費、電子計算機借料・回線使用料は全学情報基盤分で4年間のリース（レンタル）支払である。これの合計は168,157千円であり、決算額に対し80.0%の比重を有している。つまり、実質的なセンター運営費は交付金の20.0%である。

平成19年度も同様であり、決算（支出）は210,053千円に対し全学情報基盤分は178,917千円で、決算額に対し、85.0%に達している。

「表6-1-1 決算一覧表」は、別に添付する。

添付資料

資料-4 決算一覧表

##### 【分析結果とその根拠理由】

表6-1-1のとおり、センターの大学全体に対する支援活動業務は増大しつつあるのに対し、交付金は減少しつつある。したがって、この形での交付金配分が続くようであれば、センターは今後十分な活動ができなくなることが確実である。

#### 6-2-1 目的を達成するため、活動に対し、適切な資源配分が行われているか

##### 【観点に係る状況】

表6-1-1により、センター運用費用は下記のとおり急激な減額方向にある。

平成18年度	41,877千円
平成19年度	31,136千円
平成20年度	

##### 【分析結果とその根拠理由】

減額された費用は、主に研究費の削減、人件費の削減で賄っており、センターの主たる業務に支障

が出始めている。

### 6-2-2 予算の策定に関し、委員会等で適切な審議が行われ、構成員に明示されているか。

#### 【観点に係る状況】

平成 19 年度に、学長の諮問委員会である情報戦略ワーキンググループで検討が行われ、今後の情報基盤整備のあり方の答申が出された。

#### 【分析結果とその根拠理由】

上記答申に基づいて、組織の改革を実現するべく推進中である。

### 6-2-3 決算に基づき、資源配分の効果に対する評価を行っているか。また、その評価結果を次期の予算策定にフィードバックしているか。

#### 【観点に係る状況】

基準4で示したセンター活動実績と予算・決算数値の対応を検討し、その効果を定量的に評価している。

#### 【分析結果とその根拠理由】

平成 18 年度、19 年度ともに十分な投資対効果を確認した。

## (2) 優れた点及び改善を要する点

#### 【優れた点】

限られた人員、予算でセンターの目的を達成すべく進めている。

#### 【改善を要する点】

大学運営にかかわる情報基盤の占める割合が増大しつつある。これに対応するため、現状の組織、予算では不十分であり、早急な検討、改善が必要である。

## (3) 基準6の自己評価の概要

センターの目的遂行のための財政基盤、人員基盤については大きな問題はなかったが、今後見込まれる学生サービスや基幹システムの拡充に対応するには、十分とはいえない。

#### 添付資料

- 規則-1 静岡大学総合情報処理センター規則
- 資料-2 2008 学生案内
- 資料-3 ISMS 文書
- URL -2 静岡大学総合情報処理センター公式 ホームページ
- URL -3 静岡大学総合情報処理センター規則 ホームページ

**基準7 管理運営****(1) 観点ごとの分析**

- 7-1 目的を達成するために必要な管理運営体制及び事務組織が整備され、機能していること。
- 7-2 管理運営に関する方針が明確に定められ、それらに基づく規定が整備され、各構成員の責務と権限が明確に示されていること。
- 7-3 目的を達成するために、活動の総合的な状況に関する自己点検・評価が行われ、その結果が公表されていること。

**(基本的な観点)**

- 7-1-1 管理運営のための事務組織及びその他の組織が、目的の達成に向けて支援するという任務を果たす上で、適切な規模と機能を持っているか。また、必要な職員が配置されているか。

**【観点に係る状況】**

平成16年の法人化から現在までは、下記業務遂行組織に示すとおり、センターの機能は、実行部門としての総合情報処理センターと、それを支援する事務部門としての学術情報部研究協力・情報チーム情報企画スタッフ（以下、「情報企画スタッフ」という）によって遂行されている。センター長はCIO補佐を兼務する。したがって、センターは情報基盤の運営の他に、全学の情報にかかわる事案解決や情報基盤整備計画に対して支援する機能を有する。

これらの機能を遂行するために、主として専任教員が計画指揮を、技術専門職員が実施を分担し、情報企画スタッフが事務的支援を分担している。これらの人員は浜松キャンパスと静岡キャンパスに概ね等分に配置されている。

**【分析結果とその根拠理由】**

平成12年の総合情報処理センター化以来、技術専門職員と専任教員を順次増強しており、かつ、事務組織は、法人化に伴って飛躍的に強化された。これにより、現在はなすべき機能は完全に遂行されている。

- 7-1-2 目的を達成するために、部局長のリーダーシップの下で、効果的な意思決定が行える組織形態となっているか。

**【観点に係る状況】**

表7-1-2の業務遂行組織表のうち、センター長と副センター長は併任教員である。センター長は、センター業務の方針の決定権を持ち、日常の情報基盤運営においては、専任教員が企画、技術職員が実行、そして事務が支援するという分担である。

・業務遂行組織

表7-1-2 業務遂行組織表

総合情報処理センター	
センター長 (併任)	: 1名 (CIO 補佐役兼務)
副センター長 (併任)	: 1名
分室主任 (併任)	: 1名
ネットワーク主任 (併任)	: 2名
浜松キャンパス (本部)	専任教員 : 准教授 1名 前任技術専門職員 : 1名 (平成12年配置) パート事務職員 : 1名 パート技術職員 : 1名 派遣職員 : 1名
静岡キャンパス (分室)	専任教員 : 准教授 1名 (平成15年配置) 前任技術専門職員 : 2名 パート事務職員 : 1名 パート技術職員 : 1名
情報企画スタッフ	課長以下5名

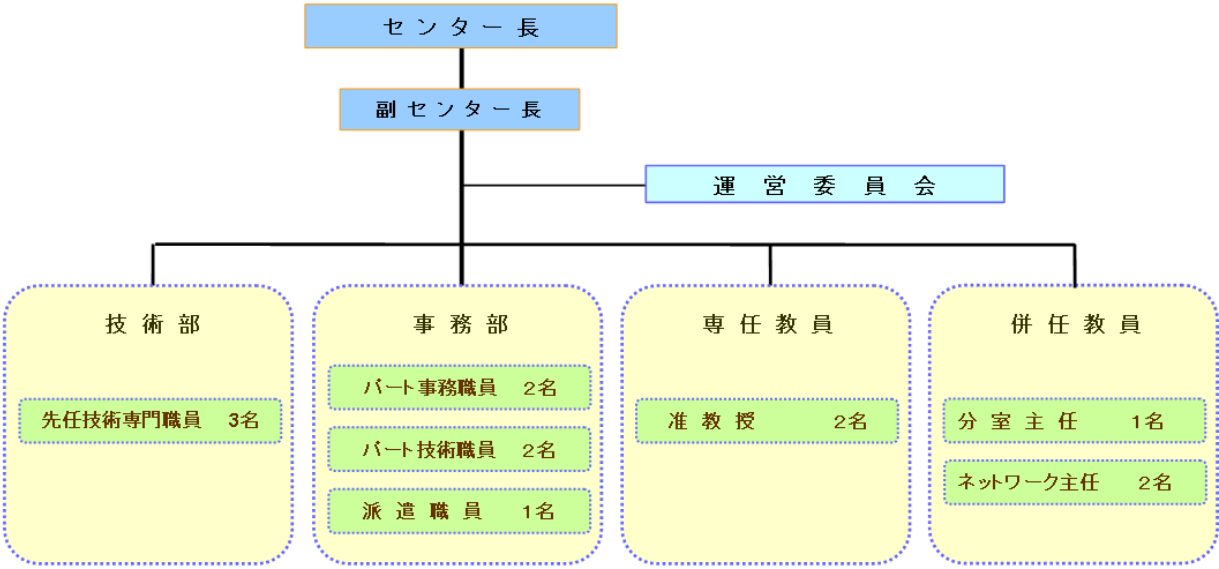
CIO (研究・情報担当理事)

(出典：センターからの報告)

図7-1-2 総合情報処理センター組織図

総合情報処理センター組織図

20.7.1 現在



(出典：センターからの報告)



**【分析結果とその根拠理由】**

概ねよく機能している。

現時点では、センター長は5期9年目であり、副センター長は前センター専任教員である。したがって、センター運営と全学的調整についての経験は十分である。情報基盤整備や運用など特殊な知識と経験を要するポストは、併任教員が短期間でこなすには困難があり、その意味では、センター専任教員からセンター長が選出されるべきであるが、現状のセンター長および副センター長に関しては、リーダーシップを果たし得る立場にあり、機能していると見られる。

また、専任教員は十分な専門的知識を有し、かつ組織のまとめ役としても、よく機能している。

**添付資料**

規則－8 総合情報処理センター運営委員会規則

資料－3 ISMS 文書

名簿－1 総合情報処理センター運営委員会名簿

議事録－1 平成18年度第1回 総合情報処理センター運営委員会議事要録

議事録－2 平成18年度第2回 総合情報処理センター運営委員会議事要録

議事録－3 平成18年度第3回 総合情報処理センター運営委員会議事要録

議事録－4 平成19年度第1回 総合情報処理センター運営委員会議事要録

議事録－5 平成19年度第2回 総合情報処理センター運営委員会議事要録

7-1-3 管理運営のための事務組織及びその他の組織が十分に任務を果たすことができるよう、研修等、管理運営に関わる職員の資質の向上のための取組が組織的に行われているか。

**【観点に係る状況】**

センター運営上の事案は、スタッフ会議において対応する。運営のための教育・研修においては、二つの方法によって実施されている。

- ① スタッフ会議において、ISMS およびネットワーク運用上の管理的知識共有、窓口事務などでの対応方法の再検討が毎週行われている。
- ② 主として専任教員と技術専門職員は、スタッフ会議を経て、適宜外部研修や学会などに出張し、知識吸収や他大学との交流を図っている。

**【分析結果とその根拠理由】**

概ねよく行われている。

スタッフ会議はほぼ毎週実施されており、研修は重要な事案である。特に ISMS においては、年間教育計画の設定が義務付けられており、着実に実施されている。外部の研修には積極的に出席するよう勤めており、専任教員においては、学会などへの参加・発表は積極的に行われている。

これらはセンター活動のうち、研修等を抜粋した表7-1-3で明らかのように、研修機会は豊富である。また、他大学からの評価を含めて成果も十分に上がっている。

平成18年度～平成20年7月までのセンター活動のうち研修等を採録し表7-1-3にまとめた。

表7-1-3 センター 研修等活動実績

I 発 講 調 そ 氏	S 表 演 査 の 他 名	M	S	:主にISMS (ISO/IEC27001) に関わる活動に関する活動 :研究発表・学会発表 :招待講演 :調査・視察活動 :その他の顕著な活動 :主に中心的な活動をしたセンター構成員の氏名	
日	付	種	類	氏	名
【平成20年度】					
平成20年 9月16日   9月17日		【予定】 ISMS		項目名	: ISMS (ISO/IEC27001) 継続審査 外部審査機関 : 日本情報セキュリティ認証機構 (JACO-IS)
9月12日		【予定】 発表	八巻 井上 長谷川 高橋 高田 望月	演題 発表 主催 場所	: グリーンIT 実現に貢献する SaaS、アウトソーシング戦略の推進 : 井上春樹, 八巻 直一, 長谷川孝博, 高橋秀年, 高田重利, 望月邦昭 (静岡大学) : 国立大学法人情報センター系交流・連絡会 : 高知大学 メディアの森 6 階 メディアホール
9月12日		【予定】 発表	長谷川	演題 発表 主催 場所	: 情報セキュリティマネジメントシステム (ISMS) における効率的な 詳細リスクアセスメント 実施手法の提案と情報処理センターへの適用 : 市川 哲彦, 永井 好和 (山口大学), 長谷川 孝 (静岡大学), 伊藤 賢 (ITSC), 三池秀敏 (山口大学) : 国立大学法人情報センター系交流・連絡会 : 高知大学 メディアの森 6 階 メディアホール
8月31日   9月1日		【予定】 ISMS		項目名	: ISMS (ISO/IEC27001) 内部監査 内部審査員 : 情報学部教員2名
7月17日		調査	長谷川	項目名 訪問先	: 宇都宮大学総合メディア基盤センターISMS 視察 : 宇都宮大学総合メディア基盤センター
6月21日		発表	井上	大会名 演題 主催 場所	: 第2回国立大学法人情報系センター ISMS 研究会プログラム : ISMS 中長期戦略 SaaS-BCP の実証実験報告 : 宇都宮大学 : キャンパスイノベーションセンター東京
6月6日		調査	八巻 井上	項目名 訪問先 内容	: 全国連合農学研究科 総会出席 : 日大生物資源科学部 (神奈川県藤沢市亀井野) : 全国連合農学研究科協議会 遠隔講義システムの調査
6月		開発	八巻 井上 長谷川	項目名 開発の 背景 特徴	: 静岡大学用シンクライアントシステム 開発完了と実適用開始 : 素材は Sun Micro Systems の Sun Ray シンクライアントであるが、 そのままでは操作性、全学での日常的な運用が困難であるため大 学の事務、業務、教育に違和感なく使用できるシステムを開発す ることとした。 : 学内 LAN と同じアカウントでログインが可能。認証の統一を実現。 機能操作は Windows2003 の為、Windows XP や 2000 を使用している

			導入コスト 展開	<p>ユーザに違和感はない。また、制御サーバ、HDD は外部 iDC で稼働しているためにセキュリティ水準は高い。</p> <p>: サーバを全学共通基盤として整備した場合、シンククライアント側の機器コストは 60 千円/台+LAN 敷設費用である。</p> <p>: 6 月 30 日に人文学部、こころの相談室に 6 セットを導入完了。問題なく稼働中。今後、事務用、教育用、図書館などへの適用を検討してゆく。</p>
5 月 31 日	産学連携	八巻 井上 長谷川	研究名 企業名 研究内容 期間 研究結果 報告書	<p>: SaaS 型データセンターを活用するビジネスモデルと情報システムの研究</p> <p>: 株式会社ビック東海</p> <p>: (1) 大規模シンククライアントシステムの研究 (2) SaaS の研究 (3) サーバ委託型システムにおける ISMS の研究 (4) 大学 IT 資産のアウトソーシング研究</p> <p>: 平成 19 年 10 月 1 日～平成 20 年 5 月 30 日</p> <p>: 焼津のインターネットデータセンター (以下 SBC) と静岡、浜松キャンパスを LAN で結合し、新しい学内 LAN を構築した。初期の予定通り、平成 20 年 6 月 1 日より SBC で、シンククライアント制御サーバ、ターミナルサーバ、遠隔講義システムサーバが実運用を開始した。</p> <p>: 7 月中に研究成果をまとめ報告予定である。</p>
5 月 23 日	調査	八巻 長谷川	項目名 訪問先 内容	<p>: 東京農工大学情報基盤視察</p> <p>: 東京農工大学総合情報メディアセンター</p> <p>: 全国連合農学研究科協議会 遠隔講義システムの調査</p>
5 月	発表	八巻	演題 発表 主催 場所	<p>: 組織の意思決定支援の Web システムの開発</p> <p>: 池谷友里, 水野信也, 八巻直一</p> <p>: 日本経営工学会</p> <p>: 電気通信大学</p>
5 月	発表	八巻	演題 発表 主催 場所	<p>: 輸送ネットワークと安全在庫配置の同時改善解の算出</p> <p>: 水野信也, 高井英造, 八巻直一</p> <p>: 日本経営工学会</p> <p>: 電気通信大学</p>
4 月	開発	八巻 井上 長谷川	項目名 特徴 導入コスト 今後の 展開	<p>: 新遠隔講義システムの運用を開始</p> <p>: HD 仕様の TV 会議システムに加え、高解像度映像 (HD) による WEB 配信システムを開発し適用した。従来の WEB による配信は Media Player, Flash などを用いていたため、映像の解像度が低く、かつエンコード+配信に 15~30 秒の遅延時間が発生していた。これに対し本システムは HD 仕様、かつ遅延時間 1.2~1.8 秒を実現した。</p> <p>: 従来の 1/2-1/4 を実現した。</p> <p>: 従来のシステムが設置されている他 6 教室も本システムに置き換えて行く予定である。また、他の共通教室の IT 化も推進していく。</p>
4 月	開発	八巻 井上 長谷川	項目名 特徴	<p>: 電子掲示板による案内システムの運用を開始 (静岡キャンパス)</p> <p>: パソコンのディスプレイ出力を LAN 上に配信し、表示したい個所に専用の受信装置を設置することで市販の大型液晶 TV を接続可能とした。</p>

			運用効率・セキュリティ 導入コスト	<p>1台のPCで最大で16台のディスプレイ上に同じコンテンツを表示できる。</p> <p>: コンテンツ制御用パソコンはセンター分室にて管理できるので運用効率が高く、セキュリティ的な問題も同時に解消できる。</p> <p>: 従来の電子表示板システムの価格は2000千円/セット程度であったので、多数の設置は困難であった。今回開発したシステムを構成するディスプレイは市販の32インチサイズで約90千円、専用の受信装置は約60千円/台程度である。従って設置工事などを含めても1か所200千円程度で導入できる。従来の1/10程度であるので限られた予算で多数を設置できる。</p>
			展開 コンテンツ	<p>: 各部局に紹介し、必要な部局での導入を支援していく。</p> <p>: 学共通のお知らせ、YAHOO/気象庁からのニュース天気予報情報、センターからの日々のお知らせ、その他即時性が必要な情報を毎日更新中。</p>
<b>【平成19年度】</b>				
3月25日	講演	長谷川	<p>項目名 : セキュリティマネジメントセミナー</p> <p>主催 : 日比谷総合設備株式会社</p> <p>場所 : グランパークタワー (東京)</p> <p>演題 : 情報セキュリティマネジメントシステムの効率的な運用と境界のセキュリティ</p> <p>講師 : 長谷川孝博</p>	
1月31日	講演	八巻	<p>項目名 : イノベーションビジネスマッチング</p> <p>主催 : 財団法人浜松地域テクノポリス推進機構</p> <p>場所 : グランドホテル浜松</p> <p>演題 : 学術機関での情報セキュリティに対する取り組み知識発信のための新出版事業</p> <p>講師 : 八巻 直一</p>	
平成19年 12月21日	発表  ISMS 研修	八巻 井上 長谷川  高橋	<p>大会名 : 第1回国立大学法人情報系センターISMS研究会プログラム</p> <p>演題 :</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・セマンティックWEBの活用の研究 静岡大学大学院工学研究科 渡邊 都代史</li> <li>・ディザスタリカバリシステムについて 静岡大学大学院工学研究科 岡田 吉弘</li> <li>・大学におけるISMSの取り組みについて 静岡大学総合情報処理センター長 八巻 直一</li> <li>・静岡大学におけるISMS確立、ISO27001認証取得事例 —全体像・資産管理とリスクアセスメント・文書管理— 静岡大学総合情報処理センター准教授 長谷川 孝博</li> <li>・大学におけるソフトウェアライセンス管理とコンプライアンス 静岡大学総合情報処理センター准教授 井上 春樹</li> </ul> <p>主催 : 静岡大学 総合情報処理センター</p> <p>・立案 ・発起</p> <p>場所 : キャンパスイノベーションセンター東京</p>	

12月9日	講演	八巻	大会名 主催 場所 演題 講師	: PMF 関西第4回意思決定研究会 : PMF 関西意思決定研究会 : 大阪市立総合生涯学習センター : OR(オペレーションズ・リサーチ)の世界 : 八巻 直一
12月	発表	井上 八巻 長谷川	演題 発表 主催 場所	: マルチメディア教材を活用した非同期型バーチャルゼミナールシステム VSS の開発 : 井上春樹, 八巻直一, 長谷川孝博 (静岡大学総合情報処理センター), 上田芳伸(静岡大学工学部), 岡田安人, 中岸哲也, 林桂二(㈱アーネット) : 日本 e-Learning 学会 : 琉球大学
11月9日	ISMS 研修	高橋	名称 主催者 場所	: 情報漏洩対策セミナー : 日立電線 : 秋葉原 UDX(東京都千代田区神田 4-14-1)
11月	発表	八巻 井上	演題 発表 主催 場所	: 情報セキュリティにおける事故の推定方法に関する研究 : 石野正彦(三菱電機 IT), 八巻直一(静岡大学), 井上春樹(静岡大学) : 経営情報学会 : 静岡大学
11月	発表	八巻 長谷川	演題 発表 主催 場所	: 情報セキュリティマネジメントに対するセマンティックウェブの適用 : 渡邊都代史(静岡大学), 清水昇((株)サイバーエッジ), 長谷川孝博(静岡大学), 八巻直一(静岡大学) : 経営情報学会 : 静岡大学
11月	発表	八巻 長谷川	大会名 演題 発表 場所	: 経営情報学会 2007年秋季全国研究発表大会 : 詳細リスク分析法に基づく新しい情報セキュリティリスクアセスメント手法 : 長谷川孝博(静岡大学), 伊藤賢((株)ITSC), 渡邊都代史(静岡大学), 八巻直一(静岡大学工学部) : 静岡大学
11月	発表	八巻	演題 発表 主催 場所	: テレビCMの割付問題 : 仲神潤, 八巻直一 : 経営情報学会東海支部 : アクトシティ浜松研修交流センター
11月	発表	八巻	演題 発表 主催 場所	: 大規模 AHP の適用例 : 児玉和俊, 八巻直一 : 経営情報学会東海支部 : アクトシティ浜松研修交流センター
11月	発表	八巻 井上	演題 発表 主催 場所	: ディザスタリカバリーシステムについて : 八巻直一(静岡大学), 井上春樹(静岡大学), 岡田吉弘(静岡大学) : 経営情報学会 : 静岡大学浜松キャンパス

10月10日   10月11日	ISMS 研修	高橋	名称 主催者 場所	: 情報セキュリティセミナー2007 : 独立行政法人 情報処理推進機構 (IPA) : 浜松商工会議所 マイカホール
10月	発表	八巻	演題 発表 主催 場所	: Excel を用いたモデリングと線形計画法 : 八巻直一 : 日本オペレーションズ・リサーチ学会中部支部 : 第二豊田ビル
10月	発表	八巻	演題 発表 主催 場所	: Excel を用いたモデリングと線形計画法 : 八巻直一 : OR 学会中部支部 : 南山大学数理情報研究センター
10月	開発	八巻 井上 長谷川	項目名	: フェリカに対応した新しい学生証を利用したパスワード再発行システム : パスワードの窓口での発行時間を 30 秒程度に短縮。本システム導入以前は翌日渡しであった。
10月	開発	八巻 井上 長谷川	項目名 特徴 導入コスト 展開	: 指静脈認証システムの開発 : 指静脈パターンのユニーク性に着目した個人認証システムを開発し、CIO 応接室の入退室管理システムに適用した。日立ほかの従来方式とは異なる独自のアルゴリズムを用いている。従来方式に比較し認証精度、認証成功率は同等以上を得た。 : 本システムは、指静脈認証以外に、Felica カード、テンキーによる認証装置も内蔵している。これらと同等な従来の製品に比較し 1/2 以下を実現した。 : キャンパス内のビル、フロア、教室毎の必要セキュリティ水準を調査し、それに応じた認証方式を適用していく。
9月25日   9月27日	その他	八巻 長谷川	項目名 場所 概要 参加人数 講演者	: ISMS 実践基礎セミナー 東海地区技術職員研修(3 日間のコース) をセンター主導で実施 : 浜名湖国際頭脳センター : ISMS の概略の説明、モデルケースを設定し ISMS 構築を演習形式で行う。基本方針、適用範囲のレイアウトなどの設計、資産の洗い出しとリスクアセスメント、管理策の適用とリスク対応計画の策定、手順書・手引きの策定、管理策の有効性の測定。講義形式、グループ演習形式、発表形式。 : 25 名 (5 名で 1 グループ) : 八巻直一、長谷川孝博
9月18日   9月19日	ISMS		項目名	: ISMS (ISO/IEC27001) 継続審査 外部審査機関 : 日本情報セキュリティ認証機構 (JACO-IS)
9月4日	ISMS		項目名	: ISMS (ISO/IEC27001) の規格基準に基づくマネジメントレビューを実施
8月24日	講演	井上	項目名 主催 場所 演題 講師	: IT ソリューションフォーラム 2007 : 株式会社ビック東海 : 静岡市ベルアージュ 大ホール : SaaS 型データセンターを活用する IT 資産外部委託型経営のご提案 : 井上春樹

7月30日   7月31日	ISMS		項目名	: ISMS (ISO/IEC27001) 内部監査 内部審査員 : 情報学部教員2名
7月26日	調査	八巻 長谷川	項目名 訪問先 訪問者 内容	: 大阪大学サイバーメディアセンター視察 : 大阪大学サイバーメディアセンター 吹田キャンパス 本部 : 八巻センター長, 長谷川孝博 : 全学認証基盤システム、Single Sign On(SSO)システム、 各種情報サービス、組織構成・規模等の調査
7月	サービス	八巻 井上 長谷川	項目名	・総合情報処理センター学内トップページの刷新 ・学内ユーザに対して、サービス内容を整理・明確化 全て自主制作による
6月26日	講演	井上	項目名 主催 場所 演題 講師	: インターネット活用技術とコンプライアンスセミナー : 独立行政法人 海技教育機構 : 国立清水海上技術短期大学校 (静岡県清水区折戸3丁目) : インターネット活用技術と IT コンプライアンス : 井上春樹
6月21日	講演	井上	項目名 主催 場所 演題 講師	: IT コンプライアンスに関する招待講演 : New Educational EXPO2007 実行委員会 : New Educational EXPO2007, 大阪マーチャンダイズマート (大阪) : 大学の IT コンプライアンス問題点と解決策 : 井上春樹
6月7日	講演	井上	項目名 主催 場所 演題 講師	: IT コンプライアンスに関する招待講演 : New Educational EXPO2007 実行委員会 : New Educational EXPO2007, 東京ビックサイト (東京) : 大学の IT コンプライアンス 問題点と解決策 : 井上春樹
5月25日	調査	八巻 井上 長谷川	項目名 訪問先 訪問者 内容	: 広島大学情報基盤視察 : 広島大学情報メディア教育研究センター : 八巻直一、長谷川孝博 : 全学統合認証システムに関する調査・視察
5月	発表	八巻	演題 発表 主催 場所	: MSn を利用する Denovo シーケンサーの開発 : 梶原茂樹, 安藤和敏, 関谷和之, 八巻直一, 岩本慎一 : 日本質量分析学会第55回質量分析総合討論会 : 広島国際会議場
4月12日	講演	長谷川	項目名 主催 場所 演題 講師	: 情報セキュリティ研修会にて招待講演 : 株式会社 日本情報セキュリティ認証機構 : 経団連会館 (東京千代田区大手町) : 効率的な ISMS について : 長谷川孝博
4月	サービス		項目名	: コンテンツフィルタによる附属小中学校の保護開始
4月	サービス		項目名	: 実習室6で視覚補助PCの運用開始
<b>【平成18年度】</b>				
3月31日	活動 報告書	八巻 井上 長谷川	項目名 詳細	: IT コンプライアンス活動報告書 : ITCP 委員長 (八巻直一)、ITCP 委員 (井上春樹・長谷川孝博、他全学委員) からなる ITCP 委員会によ

				り全学ソフトウェアライセンス調査の実施報告書を完成
3月9日	ISMS 研修	高橋	名称 主催者 場所	: ISO/IEC20000 規格解説研修 : (株)日本環境認証機構(JACO) : JACO 本社(東京都港区赤坂 2-2-19 アドレスビル)
3月	発表	長谷川	項目名  発表者	: "Construction and tests of the fully diskless cluster system using educational personal computer system", Y. Inoue and T. Hasegawa, The Abstract of International Symposium on Dynamical Systems Theory and Its Applications to Biology and Environmental Sciences, 2, 149 (March, 2007) : 長谷川孝博
2月28日	講演	長谷川	セミナー名 主催 場所 講師	: 一般企業向け ISMS セミナー : 株式会社 ITSC : アクトシティ浜松研修交流センター51 研修交流室 : 長谷川孝博
1月18日	講演	長谷川	セミナー名 主催 場所 講師	: 一般企業向け ISMS セミナー : 株式会社 ITSC : アクトシティ浜松研修交流センター52 研修交流室 : 長谷川孝博
1月16日	ISMS	八巻 長谷川	項目名 訪問先 訪問者 内容	: 徳島大学情報基盤視察 : 徳島大学 高度情報化基盤センター : 八巻直一、長谷川孝博 : 情報基盤の視察と ISMS に関する情報交換
1月	ISMS		項目名	: 他大学情報系センターに対して、ISMS 認証取得のためのコンサル活動を開始 →平成20年10月 ISO/IEC27001 認証取得予定
11月25日	ISMS		項目名	: ISMS 認証規格 BS7799 Ver. 2.0 から ISO/IEC27001 の切り替え審査完了 本学初の ISO 規格認証取得機関となる
10月10日   10月11日	ISMS		項目名	: ISMS 認証規格 BS7799 Ver. 2.0 から ISO/IEC27001 の切り替え審査外部審査機関 : 日本情報セキュリティ認証機構 (JACO-IS)
10月3日	ISMS		項目名	: ISMS (ISO/IEC27001) の規格基準に基づくマネジメントレビューを実施
10月2日	ベンチャー起業	井上 長谷川	項目名 業務内容 主な活動	: 静岡大学発ベンチャー企業 株式会社 ITSC を起業 : ISMS 認証取得事業、出版事業、IT サポート事業 : 井上春樹 (静岡学術出版) → 平成20年5月取締役辞任 長谷川孝博 (ISMS コンサルタント)
10月	ISMS		項目名	: 全学 IT コンプライアンス推進室の主要構成員として活動開始 委員長 : 八巻直一 大谷キャンパス推進室長: 井上春樹 城北キャンパス委員 : 長谷川孝博
10月	サービス		項目名	: WEB メールシステムの稼働開始 全学生とセンターのアカウントを持つ教職員は、学外からメールの送受信が可能となる。
10月	発表	八巻	演題 発表	: ネットワーク型サプライチェーンの解析法の提案 : 水野信也, 八巻直一, 高井英造



			主催 場所	: スケジューリング学会 : 金沢工業大学
10月	発表	八巻	演題 発表 主催 場所	: GAを用いた自由形状物を含む3次元積み付け問題の解放 : 中村和文, 八巻直一, 高井英造 : スケジューリング学会 : 金沢工業大学
8月23日   8月24日	ISMS		項目名	: ISMS (ISO/IEC27001) 内部監査 内部審査員 : 情報学部教員2名
7月12日	講演	八巻	セミナー名 演題 発表 主催 場所	: 富士ゼロックスセキュリティセミナー : 静岡大学社会人修士課程と情報セキュリティ論 : 八巻 直一 : 浜名湖クラブ : 浜松市地域情報センター
7月	発表	八巻	演題 発表 主催 場所	: Proposed method for recommending goods u... : Masahiko Ishino, Naokazu Yamaki, Teruhisa Ichikawa and Tadanori Mizun : 日本機械学会生産システム部門、スケジューリング学会 : アルカディア市ヶ谷私学会館
6月	発表	八巻	演題 発表 主催 場所	: 人員制約を考慮したスケジューリング問題 : 西村伸矢(静岡大学), 八巻直一(静岡大学), 高井英造(和光大学) : オフィスオートメーション学会・経営情報学会 : 中央大学
6月	発表	八巻	演題 発表 主催 場所	: GAを用いた不定形を含む3次元積み付け問題の解法 : 中村知文・八巻直一(静岡大学), 高井英造(和光大学) : 経営情報学会 オフィス・オートメーション学会 : 中央大学
6月	発表	八巻	演題 発表 主催 場所	: 顧客の嗜好変化に対する学習機能を持った商品推奨法 : 石野正彦・八巻直一・市川照久・水野忠則(静岡大学) : 経営情報学会 : 中央大学
5月	発表	八巻	演題 発表 主催	: ネットワーク型サプライチェーンの解析 : 水野信也・八巻直一・高井英造 : 日本経営工学会 2006年春季研究発表大会
5月	発表	八巻	演題 発表 主催 場所	: MSnを利用する Denovo シーケンサーの開発 : 梶原茂樹, 安藤和敏, 関谷和之, 八巻直一, 岩本慎一 : 経営情報学会 : 広島国際会議場

(出典: センターからの報告)

7-2-1 管理運営に関する方針が明確に定められ、その方針に基づき、諸規定が整備されるとともに、管理運営に関わる委員会等の責務と権限が文書として明確に示されているか。

【観点に係る状況】

下記、静岡大学総合情報処理センター規則に、管理方針、委員会の責務と権限などが明記されている。

表7-2-1 静岡大学総合情報処理センター規則（抜粋）

<p>静岡大学総合情報処理センター規則</p> <p>(趣旨)</p> <p>第1条 この規則は、国立大学法人静岡大学学則(昭和24年12月24日制定)第13条の規定に基づき、静岡大学総合情報処理センター(以下「センター」という。)に関し、必要な事項を定める。</p> <p>2 センターに、別表のとおり本部及び分室を置く。</p> <p>(目的)</p> <p>第2条 センターは、本学の学内共同教育研究施設として、センターの電子計算機システム及び本学の通信・情報ネットワークを管理運用し、本学の研究、教育、学術情報サービス及び事務処理のための利用に供することにより、本学における情報処理の推進に寄与することを目的とする。</p> <p>(定義)</p> <p>第3条 この規則において「部局」とは、学部、創造科学技術大学院、大学院法務研究科及び電子工学研究所をいう。</p> <p>(業務)</p> <p>第4条 センターは、次の各号に掲げる業務を行う。</p> <p>(1) 学術研究のための、科学技術計算及びデータ処理に関すること。</p> <p>(2) 情報処理教育のための、電子計算機システムの利用に関すること。</p> <p>(3) 学外の情報ネットワークとの連携及びその利用に関すること。</p> <p>(4) 本学キャンパス情報ネットワークに関すること。</p> <p>(5) 電子計算機システム及び情報ネットワーク利用者に対する技術指導に関すること。</p> <p>(6) 情報処理システムの研究及び開発に関すること。</p> <p>(7) 事務処理のための、電子計算機システムの利用に関すること。</p> <p>(8) その他第2条の目的を達成するために必要な業務</p> <p>(重要事項の審議)</p> <p>第5条 センターの管理及び運営に関する重要事項の審議は、静岡大学共同施設管理委員会が行う。</p> <p>(運営委員会)</p> <p>第6条 センターの運営に関する具体的な事項を審議するため、静岡大学総合情報処理センター運営委員会(以下「運営委員会」という。)を置く。</p> <p>2 運営委員会に関し必要な事項は、別に定める。</p> <p>(職員)</p> <p>第7条 センターに、次の職員を置く。</p> <p>(1) センター長</p> <p>(2) 副センター長</p> <p>(3) 専任教員</p> <p>(4) 分室主任</p> <p>(5) ネットワーク主任 2人</p> <p>(6) その他の職員</p> <p>(センター長)</p> <p>第8条 センター長は、センターの業務を総括する。</p> <p>2 センター長の選考に関し必要な事項は、別に定める。</p> <p>(副センター長)</p> <p>第9条 副センター長は、センター長を補佐し、センターの業務を掌理する。</p>
--

- 2 副センター長の選考については、本学の教授のうちから、管理委員会の議に基づき、学長が任命する。  
3 副センター長の任期は、2年とし、再任を妨げない。

(専任教員)

第10条 専任教員は、センターの業務を処理する。

- 2 専任教員の選考に関し必要な事項は、別に定める。

(分室主任)

第11条 分室主任は、分室の業務を処理する。

- 2 分室主任は、静岡地区の部局に所属する教員のうちから、管理委員会の議に基づき、学長が任命する。  
3 分室主任の任期は、2年とし、再任を妨げない。

(ネットワーク主任)

第12条 ネットワーク主任は、キャンパス情報ネットワークの管理運営業務を処理する。

- 2 ネットワーク主任は、本学の教員のうちから、管理委員会の議に基づき、学長が任命する。  
3 ネットワーク主任の任期は、2年とし、再任を妨げない。

(庶務)

第13条 センターに関する庶務は、学術情報部研究協力・情報チームにおいて処理する。

(補則)

第14条 この規則に定めるもののほか、センターに関し必要な事項は、別に定める。

(出典：静岡大学総合情報処理センター公式 ホームページ)

### 【分析結果とその根拠理由】

センターの管理運営は上記規則に則り行われており、委員会等の責務・権限は明確である。

#### 添付資料

- 規則-1 静岡大学総合情報処理センター規則  
規則-10 共同施設管理委員会規則  
URL -3 静岡大学総合情報処理センター規則 ホームページ

### 7-2-2 適切な意思決定を行うために使用される、目的、計画、活動状況に関するデータや情報が、蓄積されているとともに、構成員が必要に応じてアクセスできるようなシステムが構築され、機能しているか。

#### 【観点に係る状況】

ISMSの人的適用範囲におけるCIO-CIO補佐-専任教員-技術専門職員-パート技術職員-パート事務職員からなる階層構造を活用した意志決定プロセスが確立している。文書化された規則に基づき、各スタッフの役割・機能は明記され、必要とされる技能獲得のための教育活動も年間計画に基づき実践されている。様々なユーザからの要求事案は、毎週行われるスタッフ会議で対応方針が審議され、措置の実施、措置の完了の確認ならびにこれらの活動記録が行われている。これらの活動が確実に行われていることは、ISMSの内部監査や外部審査を通じて定期的な確認を受けている。

ISMS運用を通じて、情報共有や記録そのものの取得・保存・アクセス方法について様々な試行と実践を重ねてきている。同時に、情報セキュリティの観点からも技術的かつ組織的に情報を保護するための複数の管理策を実践している。たとえば、キャンパス間を渡る強度暗号化ネットワークで堅牢に隔離された管理室ネットワークを利用して運用上必要となる様々な情報共有を円滑に行っている。スタッフの交代時におけるアカウントやアクセス権の適正な管理策を実施し、これらの複数人での確認プロセスと記録の管理を実践している。起案-審議記録-承認など一連の審議プロセスは全て電子掲示板

システムに記録され、過去の審議項目を含めた全文検索を全てのスタッフが利用可能な状態である。

#### 【分析結果とその根拠理由】

ISMS の認証基準に基づく、内部監査や認証審査機関による定期的な監査と審査を経て来ており、情報の共有手法や文書管理手法について高い評価を得ている。これらの根拠理由により、本センターにおける観点7-2-2の充足度は極めて高いと判断している。

#### 添付資料

- 規則-6 静岡大学総合情報処理センター利用規則
- 資料-3 ISMS 文書
- URL -6 静岡大学総合情報処理センター利用規則 ホームページ
- URL -7 静岡大学ソフトウェア管理規則 ホームページ

7-3-1 活動の総合的な状況について、根拠となる資料やデータ等に基づいて、自己点検・評価が行われているか。

#### 【観点に係る状況】

ISMS 関連については、毎年内部監査と認証機関によるサーベランスが実施されるため、活動状況と自己点検および改善計画が根拠資料とともに義務付けられている。したがって、ISMS に関しては、完全に行われている。一方、予算実施状況、ネットワークの運営状況などについては、スタッフミーティングおよびセンター会議で監視・検討されている。しかし、ISMS と同程度に行われてはいない。

#### 【分析結果とその根拠理由】

ISMS に関しては、完全である。しかし、その他の活動について、ISMS レベルに上げる必要がある。そのためには、たとえば ISO20000 取得にむけた活動などが効果的と思われる。

#### 添付資料

- 規則-6 静岡大学総合情報処理センター利用規則
- 資料-3 ISMS 文書
- URL -6 静岡大学総合情報処理センター利用規則 ホームページ
- URL -7 静岡大学ソフトウェア管理規則 ホームページ

## 7-3-2 自己点検・評価の結果が大学内及び社会に対し広く公開されているか。

**【観点に係る状況】**

ISMS に関しては、認証機関により毎年サーベランスを受けており、社会的にそのことが公知となっている。また、国立大学法人情報系センター協議会などで、積極的に発表を行っている（基準4の表4-1-1（3）に示す「センター活動実績表」参照）。一方、その他の活動に関しては、自己評価文書を作成し外部評価を平成20年9月に受ける予定になっている。

**【分析結果とその根拠理由】**

ISMS に関しては、完全である。しかし、その他の活動について、ISMS レベルに上げる必要がある。そのためには、たとえば ISO20000 取得にむけた活動などが効果的と思われる。

## 7-3-3 自己点検・評価の結果について、外部者（当該大学の教職員以外の者）による検証が実施されているか。

**【観点に係る状況】**

外部評価委員会による評価を受ける予定。（平成20年9月）

**【分析結果とその根拠理由】**

平成20年より外部評価委員会の開催を予定している。

## 添付資料

規則-6 静岡大学総合情報処理センター利用規則

資料-3 ISMS 文書

URL -6 静岡大学総合情報処理センター利用規則 ホームページ

URL -7 静岡大学ソフトウェア管理規則 ホームページ

## 7-3-4 評価結果がフィードバックされ、管理運営の改善のための取組が行われているか。

**【観点に係る状況】**

平成20年から外部評価を実施するので、フィードバックを計画したい。

**【分析結果とその根拠理由】**

平成20年から実施予定である。

## (2) 優れた点及び改善を要する点

**【優れた点】**

全学の意思決定機構が機能した結果、ISMS における ISO27001 取得と、全学で IT コンプライアンスに積極的に取り組み、センターも応分の活動を果たしたことは、特筆されるべき事項である。全学の情報戦略が立てられ、戦略として、事務部門を中心にシンクライアント化に取り組んでいること、災害防衛も含めてサーバ類の外部委託を勧めていることが優れた活動といえる。遠隔講義システムにつ

いては、最新の性能のものを確保し、案内表示ディスプレイの拡充とともに、学生の勉学環境の向上に寄与した。

**【改善を要する点】**

業務量の増大に人的資源が追いついておらず、夜間サービスの延長、休日開放など、懸案がこなせていない。これは、全学の人的再配分がまだうまくいっていないことによる。センターが教育・研究および社会貢献により寄与するには、体制の一層の整備が重要である。

**(3) 基準7の自己評価の概要**

組織的意思決定機能は、概ね良好である。

現在、全学で戦略的に組織再編を図っており、現状のセンターの人的脆弱性が補われれば、教育・研究に今後より一層寄与しえると考えられる。

添付資料

規則－6 静岡大学総合情報処理センター利用規則

資料－3 ISMS 文書

URL －6 静岡大学総合情報処理センター利用規則 ホームページ

URL －7 静岡大学ソフトウェア管理規則 ホームページ

## 添付資料

### ○ 規則

- 1 静岡大学総合情報処理センター規則
- 2 静岡大学総合情報処理センター長選考規則
- 3 静岡大学総合情報処理センター専任教員選考に関する細則
- 4 静岡大学総合情報処理センター専任教員昇任に関する申し合せ
- 5 静岡大学総合情報処理センター専任教員選考に関する細則第5条に基づく  
申し合わせ事項
- 6 静岡大学総合情報処理センター利用規則
- 7 静岡大学ソフトウェア管理規則
- 8 総合情報処理センター運営委員会規則
- 9 静岡大学情報セキュリティ委員会規則
- 10 静岡大学共同施設管理委員会規則

### ○ 資料

- 1 平成20年度 静岡大学概要
- 2 2008 学生案内
- 3 ISMS 文書
  - ① ISMS マニュアル
  - ② ISMS 手順書
- 4 決算一覧表

### ○ 名簿

- 1 総合情報処理センター運営委員会名簿
- 2 I T C P 推進委員会名簿
- 3 共同施設管理委員会名簿
- 4 静岡大学情報セキュリティ委員会名簿

### ○ 議事録

- 1 平成18年度第1回 総合情報処理センター運営委員会議事要録
- 2 平成18年度第2回 総合情報処理センター運営委員会議事要録
- 3 平成18年度第3回 総合情報処理センター運営委員会議事要録
- 4 平成19年度第1回 総合情報処理センター運営委員会議事要録
- 5 平成19年度第2回 総合情報処理センター運営委員会議事要録
- 6 平成18年度第1回情報セキュリティ委員会議事要録
- 7 平成19年度第1回情報セキュリティ委員会議事要録

## ○ URL

- 1 静岡大学公式 ホームページ  
<http://www.shizuoka.ac.jp/>
- 2 静岡大学総合情報処理センター公式 ホームページ  
<http://www.ipc.shizuoka.ac.jp/>
- 3 静岡大学総合情報処理センター規則 ホームページ  
<http://www.shizuoka.ac.jp/reiki/document/frame/fr00001411.htm>
- 4 静岡大学総合情報処理センター運営委員会規則 ホームページ  
<http://www.shizuoka.ac.jp/reiki/document/frame/fr00001412.htm>
- 5 静岡大学総合情報処理センター長選考規則 ホームページ  
<http://www.shizuoka.ac.jp/reiki/document/frame/fr00000621.htm>
- 6 静岡大学総合情報処理センター利用規則 ホームページ  
<http://www.shizuoka.ac.jp/reiki/document/frame/fr00000622.htm>
- 7 静岡大学ソフトウェア管理規則 ホームページ  
<http://www.shizuoka.ac.jp/reiki/document/frame/fr00001465.htm>
- 8 教員データベース ホームページ  
<http://www.shizuoka.ac.jp/reiki/document/frame/fr00001465.htm>
- 9 静岡大学情報セキュリティ委員会規則 ホームページ  
<http://www.shizuoka.ac.jp/reiki/document/frame/fr00001395.htm>
- 10 静岡大学共同施設管理委員会規則 ホームページ  
<http://www.shizuoka.ac.jp/reiki/document/frame/fr00001396.htm>